



京都先端科学大学 大学院

GUIDE BOOK 2025

京都先端科学大学 大学院 5 研究科

研究を深め、人材を育てる

- 経済学研究科 [修士課程]
- 経営学研究科 [修士課程]
- 人間文化研究科 [修士課程]
- バイオ環境研究科 [博士課程前期・後期]
- 工学研究科 [博士課程前期・後期]



さらなる探究に向けて 大学院で新しい世界へ

京都先端科学大学大学院は、修士、博士の学位取得を目指す教育組織で、経済学研究科、経営学研究科、人間文化研究科、バイオ環境研究科、工学研究科の5研究科からなります。いずれの研究科においても、新たな学術の開拓や、イノベーションを生み出す人材育成をめざしています。

大学院修了生は、現代社会が直面する近未来の困難な課題や多様な社会ニーズに対し、次のような人材として主体的に社会へ貢献していきます。

- 1) 経済学研究科では、「幅広い分析能力と問題解決能力」を兼ね備えた職能人材
- 2) 経営学研究科では、激変する「国際的な経営環境の中でレジリエントに対応」できる経営人材
- 3) 人間文化研究科では、「文化・社会・人間の心を複眼的に追求」した専門知識を学修し、現代社会の様々な場面で活躍できる人材
- 4) バイオ環境研究科では、人間を含む全ての生命体が構成するバイオ環境の維持・発展のための研究、研究から社会実装までを視野に入れた「地球環境創成をリード」する人材
- 5) 工学研究科では、「知識を“融合”し“創造”」することで、次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できるプロアクティブ・グローバル人材

どの研究科においても求められるのは、人間への深い理解と、社会システムを実装するための知恵・知識と、それらを使うことのできる「力」です。

京都先端科学大学大学院は、世界が必要とする学術と人材を輩出する大学院として先端的な研究を推進し、未来への価値を創り出していきます。

そして、大学院学生の皆さん一人ひとりが描く夢、未来を実現できるよう、教員、職員は丸となって支援いたします。



学長

前田 正史

工学博士、東京大学 工学部卒 工学系研究科 博士課程修了。

金属生産工学、資源リサイクル。

2019年4月京都先端科学大学 学長。

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

各研究分野の高度な学識と先端的な知識や技能の修得を通じて社会に貢献しようとする意欲の高い人を求める。

カリキュラム・ポリシー

各研究分野の卓越した学識と応用力を修得できるようにカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

各研究分野の学術研究者や高度専門的職業人として活躍するのに必要な識見を修得した者に学位を授与する。

教育上の目的

本学大学院の目的

本大学院は、京都先端科学大学の建学の精神を踏まえて、教育基本法及び学校教育法に基づき、専門分野における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会の進展に寄与することを目的とする。

本学大学院研究科の目的

本大学院経済学研究科は、現代経済社会の特性を踏まえつつ、国民生活の環境変化に伴う諸問題を分析し、広い視野に立って深い学識を修得し、高度な専門性の求められる職業を担うことのできる人材の育成を目的とする。

本大学院経営学研究科は、国際化・情報化・コンプライアンスの欠如といった社会環境の著しい変化の中にあって経営組織体の内外部で生ずる関連諸現象に関し、経営学的側面の理論的かつ応用実践的な専門能力を有する有為の人材育成並びに組織規模の大小、新旧を問わず、起業家精神を発揮して変革の担い手となるとともに、デジタルトランスフォーメーションや新素材開発の進む中、新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材を養成することを目的とする。

本大学院人間文化研究科は、人間の心理、社会の態様、文化の機能を多角的に解明する学問体系の構築を図り、歴史的な視点を踏まえて、現代社会が抱える諸問題の解決に寄与できる人材を育成することを目的とする。

本大学院バイオ環境研究科は、多様な生き物と共生できる持続可能な地域環境（バイオ環境）を作り上げることを目標とし、そのために、バイオ環境をデザイン（設計）する領域の発展と、これに対応したバイオテクノロジーと環境学を連携させた広い視野を持つ人材を養成することを目的とする。

本大学院工学研究科は、機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の専門的知識・学術・教養を兼ね備え、グローバル社会への関心と、次世代の電気機械システムに必須の専門領域の高度な知識を修得し、さらに深化させることによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる技術者・研究者を育成する。

沿革

- 1951年 3月 学校法人京都学園創立
- 1969年 4月 京都学園大学開設
- 1995年 4月 大学院経済学研究科
修士課程開設
大学院経営学研究科
修士課程開設
- 2002年 4月 大学院人間文化研究科
修士課程開設
- 2010年 4月 大学院バイオ環境研究科
博士課程（前期・後期）開設
- 2019年 4月 校名変更
京都先端科学大学 大学院
- 2020年 4月 大学院工学研究科
機械電気システム工学専攻
博士課程（前期・後期）開設
- 2022年 4月 大学院経営学研究科
経営管理専攻（ビジネススクール）
修士課程開設

経済学研究科

Graduate School of Economics

京都太秦キャンパス

「データサイエンスと行動経済学コース」 経済学専攻 修士課程

Data Science and Behavioral Economics Course

「税理士養成コース」 経済学専攻 修士課程

Tax Accountant Training Course

経済学研究科は2つの専門コースから構成されます。「データサイエンスと行動経済学コース」では、経済学とデータ解析の専門技術を応用し、直面する諸課題に対する提案能力を醸成します。一方、「税理士養成コース」では、税理士資格取得を目指す人に修士論文作成のサポートとともに、相続や経営に関する支援業務の専門知識を有する実務に役立つ人材を育成します。

めざすこと

- ① ICT や AI を駆使してデータ解析を行うことで市場や社会の構造を理解し説明できる人材の育成
- ② 行動経済学を柱とする発想と技術に基づきビジネスシーンで有効な提案ができる人材の育成
- ③ 個人や企業に対しプロフェッショナルな視点と知識により貢献できる税理士の育成



高度専門職人材の育成と社会人への手厚い修学支援

経済学研究科は、「データサイエンスと行動経済学コース」と「税理士養成コース」という2つの専門コースから構成されます。前者では、経済学の専門的知識やデータ解析の専門技術を獲得するだけでなく、それを人間行動の分析や、市場や社会の構造の理解に応用し、実際のビジネスシーンで直面する諸課題の解決に向けて提案ができる人材の育成を目指します。また、後者では税理士の資格取得を目指す人に向けて、修士論文作成のための手厚いサポートと共に、実務として個人や企業に対する相続や経営に関する支援業務で役立つ専門知識の獲得を目指します。いずれのコースも、限られた時間を有効に活用したい社会人の修学を支援するため、対面授業を基本としつつ、土曜日集中、夜間、オンラインなど柔軟かつ多様な形式で開講される授業を用意しています。

経済学研究科長 徳賀 芳弘

研究内容や教育内容

データサイエンスと行動経済学コース

データ収集・処理に始まり、それらデータの統計解析を行うための python 等のプログラミングの基礎を学び、最終的には自ら問を立て仮説を構築しデータを用いて検証するスキルの修得を目指す。また、行動経済学を基礎とする経済実験（実験室実験・フィールド実験）やコンピュータ・シミュレーションを通して、ランダム化比較試験（RCT: Randomized Controlled Trial）や深層学習（Deep Learning）などを活用する技法の修得を目指す。



税理士養成コース

各種の租税法や租税会計実務を学び、税法および会計学の領域での修士論文の完成と、税理士としての実務で役立つ知識と技能の修得を目指す。また、会計業務や経営指導業務だけでなく、民間企業の会計参与や地方公共団体の外部監査人など、幅広い領域での職務遂行に求められる専門的知識、および高い職業倫理意識を持つ税務・会計領域における専門的職業人の育成を目指す。

「データサイエンスと行動経済学コース」

経済学専攻 修士課程 Graduate School of Economics

CONCEPT

コースのコンセプト

データ分析の技法や行動経済学の知識を獲得し、それを人間行動あるいは市場や社会の構造の理解に応用し、実際のビジネスにおける諸課題の解決に向けた提案ができる専門職業人材を育成します。

このコースのコア科目（重要科目）は「データサイエンス」と「行動経済学」の2つの領域から構成されており、人間行動や社会構造を理解するためのデータ分析の技法や、行動経済学に基づく実験やコンピュータ・シミュレーションの技法について包括的に学びます。「データサイエンス」領域の科目では、理論面だけではなく実データの利用を念頭において python 等の統計解析ツールを用いた分析法や、ビッグデータを基に高次の予測・判断を行う機械学習を用いた分析手法などを学びます。また、「行動経済学」領域では、行動経済学が導き出す諸理論とその現実社会での応用について、実験室実験やフィールド実験の手法と合わせて、包括的に学習します。コンピュータ・シミュレーションでは、行動経済学の知見を取り入れたマルチエージェント・シミュレーションについて基礎から学ぶだけでなく、AI（人工知能）において最も重要な技術である「深層学習」(Deep Learning)も併せて学習することで、様々なビジネスに応用可能な最先端の分析手法を習得することができます。その他、情報系の科目を通じて、実際のビジネス展開における AI、メタバース、IoT などの最新の活用事例とその阻害要因などについても学ぶことができます。

めざすキャリア

- データアナリスト
- データサイエンティスト
- マーケティングリサーチャー
- ビジネス・コンサルタント など

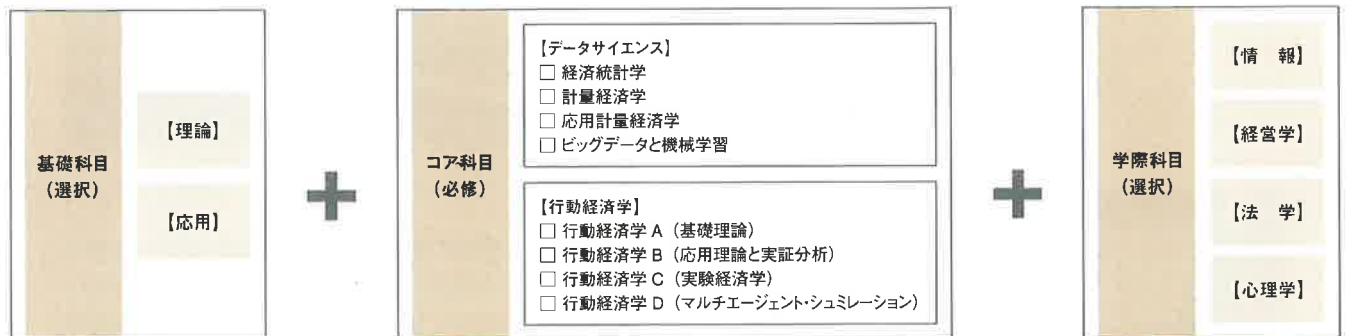
CURRICULUM

カリキュラム

「データサイエンスと行動経済学コース」では、2年間を通して履修登録する「演習」（論文指導）と合わせて、「コア科目」に挙げられているデータサイエンス領域の4科目と行動経済学領域の4科目が必修となります。それ以外は、経済学の理論と応用を学ぶ「基礎科目」、あるいは情報、経営学、法学、心

理学の領域から成る「学際科目」からの自由選択となります。また、併設される「税理士養成コース」の開講科目の一部についても受講することが可能です。詳しく科目名称と内容については、経済学研究科のHPをご参照ください。

<データサイエンスと行動経済学コースのカリキュラム構成>



年度により開講科目が変更されることがあります。

「税理士養成コース」

経済学専攻 修士課程 Tax Accountant Training Course

CONCEPT

コースのコンセプト

税務の実務能力はもちろん、
経済、法務、会計の各領域の専門知識を備え、
社会の幅広い領域で活躍できる専門職業人材を育成します。

税理士は、税務の専門家として個人や企業が税務署に提出する申告書の作成を代行するだけでなく、決算書類の作成や会計帳簿の記帳代行などの会計業務、そして経営指導の業務も担っています。また、税理士は、民間企業の会計参与や地方公共団体の外部監査人となることも認められているほか、企業に勤務しながら税務を担当する企業内税理士の需要も高まっており、社会の幅広い領域で活躍しています。したがって、こうした税理士に期待される職務遂行のためには、これまで以上に幅広い専門的な知識が不可欠であることはもちろん、公正で透明な税務行政に貢献できるような高い職業倫理意識を持つことが要請されています。本学大学院の税理士養成コースは、このような時代的要請に応え、税務・会計領域における専門的職業人の育成を目指します。

めざすキャリア

中小企業における経営支援の担い手

税理士

民間企業・行政機関における法務・会計の担い手

企業内税理士

国税専門官

※ 学位取得による税理士試験の科目免除制度について

税理士養成コースは税理士資格の取得を目指している人たちをサポートするプログラムです。税法コースまたは会計コースにおいて所定の修了要件を満たした上で、修士論文を国税庁・国税審議会に提出することにより、税法2科目または会計1科目の試験免除を受けることができます。

コース	修士論文の内容	取得できる学位	試験免除の内容
税法コース	税法に関する論文	修士(経済学)	税法2科目免除
会計コース	会計学に関する論文	修士(経済学)	会計1科目免除

CURRICULUM

カリキュラム

演習では2年間を通じて完成度の高い修士論文作成のために丁寧な指導を受けることができます。また、税法コース、会計コース共に税理士養成に特化した

科目群を設定し、クライアントの疑問や要請に理論的・実践的に応えられるような実務に役立つ知識やスキルを身に付けることが可能となっています。

税理士養成<税法>コース

コア科目 (必修)	<input type="checkbox"/> 租税論A	選択科目	<input type="checkbox"/> 会計学研究A
	<input type="checkbox"/> 租税論B		<input type="checkbox"/> 会計学研究B
	<input type="checkbox"/> 租税制度論		<input type="checkbox"/> 財務諸表論研究A
	<input type="checkbox"/> 租税法総論		<input type="checkbox"/> 財務諸表論研究B
	<input type="checkbox"/> 租税手続法		<input type="checkbox"/> 管理会計論A
	<input type="checkbox"/> 租税実体法A(所得税)		<input type="checkbox"/> 管理会計論B
	<input type="checkbox"/> 租税実体法B(法人税)		<input type="checkbox"/> 税務会計論
	<input type="checkbox"/> 租税論特殊研究		<input type="checkbox"/> 監査論
			<input type="checkbox"/> 民法総則
			<input type="checkbox"/> 経済法
			<input type="checkbox"/> 行政作用法
			<input type="checkbox"/> 法情報処理
演習	<input type="checkbox"/> 租税論演習I・II・III・IV	科目互換	<input type="checkbox"/> 他のコース科目

税理士養成<会計>コース

コア科目 (必修)	<input type="checkbox"/> 会計学研究A	選択科目	<input type="checkbox"/> 租税論A
	<input type="checkbox"/> 会計学研究B		<input type="checkbox"/> 租税論B
	<input type="checkbox"/> 財務諸表論A		<input type="checkbox"/> 租税制度論
	<input type="checkbox"/> 財務諸表論B		<input type="checkbox"/> 租税法総論
	<input type="checkbox"/> 管理会計論A		<input type="checkbox"/> 租税手続法
	<input type="checkbox"/> 管理会計論B		<input type="checkbox"/> 租税実体法A(所得税)
	<input type="checkbox"/> 税務会計論		<input type="checkbox"/> 租税実体法B(法人税)
	<input type="checkbox"/> 会計学特殊研究		<input type="checkbox"/> 監査論
			<input type="checkbox"/> 民法総則
			<input type="checkbox"/> 経済法
			<input type="checkbox"/> 行政作用法
			<input type="checkbox"/> 法情報処理
演習	<input type="checkbox"/> 会計学演習I・II・III・IV	科目互換	<input type="checkbox"/> 他のコース科目

ADMISSION POLICY

求める人物像

本研究科では、経済学部卒業生及びこれらと同等の学力を有する者で、かつ以下の条件を満たすものを受け入れる。

1. 高度な専門性を身につけて、社会の様々な分野で活躍する職業人を目指す者
2. 経済学に立脚しつつ、経営学、法学、心理学等の学問領域横断的な諸課題の解決に有用な専門知識と分析力の修得を目指す者

FACULTY

教員紹介

データサイエンスと行動経済学コース

有賀 裕二 特任教授 博士(経済学)

専門分野 ミクロ経済学、進化経済学、社会経済物理学
担当科目 ミクロ経済学 経済理論研究講義 A 経済学
著書論文 Evolutionary Economics, Springer Nature, 2024 (単著) Digital Designs for Money, Markets, and Social Dilemmas, Springer Nature, 2022 (編著)
 人工知能市場シミュレータの設計の観点からエージェントベースモデリングを研究するほか、エージェントの意思や目的がダイレクトに支配しない確率過程モデリングを研究している。

安達 房子 教授 修士(経営学)

専門分野 情報システム論
担当科目 情報システム論
著書論文 「ICTを活用した組織変革—マネジメントの視点からのテレワークの分析」(単著, 異洋書別), 「経営学概論」(編著, 大月書店) ほか多数
 AIやメタバース、IoTなどの最新のICTを企業がどのように活用しているのか事例研究を行い、ICTを自企業で活用するために、何が必要かを分析・検証する。DX化にむけての課題を明らかにする。

大島 博行 特任教授 修士(都市ビジネス)

専門分野 経営戦略論
担当科目 経営戦略論
著書論文 『「日本発」MBA 戦略&マネジメント [実践編]』(共著: 中央経済社), 「CKO—ナレッジを活かす経営」(共著: 生産性出版) ほか多数
 ケーススタディを通じて経営戦略に関する各種フレームワークを試し、その有用性と限界について検証する。実際の企業の現場でフレームワークを使いこなし、経営戦略を策定できる力を育成する。

久下 沼仁筈 教授 経済学修士

専門分野 公共政策論、政策研究講義 A
担当科目 公共政策論
著書論文 「ポスト福祉国家の経済政策」(共著, ミネルヴァ書房) 「キャリアと労働の経済学」(共著, 日本評論社) ほか多数
 政府による市場経済への政策介入の経済効果と、政策決定から実施に至る政治過程に焦点を当てた分析を行う。また、現代日本が直面する具体的課題への政策対応の在り方についても検討する。

澤田 吉孝 教授 博士(商学)

専門分野 金融論
担当科目 金融論
著書論文 The Effectiveness of Unconventional Monetary Policy in USA, (Proc. of the 45th ISICIE Int. SSS) 「フィッシャー仮説の統計的検証」(同志社大学経済学論叢) ほか多数
 無知からくる「誤った政策」は、善意であっても災禍をもたらす。このことを念頭に最新の金融理論を用いて日本の金融政策を批判的に分析する。併せて金融を読み解く力の育成を目指す。

新長 章典 教授 経済学修士

専門分野 DX 概論
担当科目 DX 概論
著書論文 「大学での電子教科書利用の課題」, 「スマートフォン・モバイル PC を利用した ICT 活用について」 ほか多数
 DX (デジタルトランスフォーメーション) の事例をもとに、成功の要因および阻害要因を考察する。

平田 謙輔 教授 修士(経済学)

専門分野 社会政策論
担当科目 社会政策論
著書論文 「社会保障の光と影」(共著, 高学出版) ほか多数
 社会政策の必要性和意義、およびその今日的課題について、歴史的・理論的に考察し理解を深めるとともに、福祉国家が抱えてきた諸問題とその転換の方向について検討する。

石原 卓典 准教授 博士(経済学)

専門分野 フィールド実験による行動経済学研究
担当科目 応用計量経済学 データサイエンス演習 プログラミング基礎
著書論文 "The Effect of Information Provision on Stated and Revealed Preferences: A Field Experiment on the Choice of Power Tariffs Before and After Japanese Retail Electricity Liberalization," Environmental and Resource Economics, 1-27. (共著)
 "Choosing Who Chooses: Selection-Driven Targeting in Energy Rebate Programs. (No. w30469), "National Bureau of Economic Research. (共著)
 統計学・計量経済学を用いた実証分析の方法と手法について学習する。最終的には先行研究で行われている統計手法を理解し、自分自身でデータ分析が行えるようになることを目的にする。

岡嶋 裕子 准教授 博士(国際公共政策)

専門分野 人事の経済学、労働経済学、教育経済学、人的資源管理
担当科目 経済統計学 データサイエンス演習
著書論文 "Do 'Boss Effects' Exist in Japanese Companies? Evidence from Subordinate-Supervisor Matched Panel Data", AEJ 35(1), 2021 (共著)
 「人事制度・施策の変更、管理監督者の職場行動、従業員の職務満足—人事マイクロデータとアンケート調査によるパネル分析—」(共著: 日本労務学会誌 15(1), 2014 (共著)) ほか多数
 統計学の基本的な理論をベースに、実データ利用を念頭に置いたpython等の統計解析ツールを用いた分析法を習得する。分析するにあたってのデータ収集方法やデータ処理の基本についても学ぶ。

カオ ティ キャン グェット
CAO Thi Khanh Nguyet 准教授 博士(経済学)

専門分野 開発金融、国際経済、応用計量経済学
担当科目 計量経済学 データサイエンス演習
著書論文 "Determinants of international students' decision to remain in Japan to work after graduation" Journal of Asian Economics 2022 単著
 「これからの東アジア: 保護主義の台頭とメガ FTAs」(共著, 文真堂) ほか多数
 企業や家計などの個別経済主体のデータを集め、計量経済学的手法を用いて、分析する方法を学習する。分析を通じて、経済学の理論を統計的に検証する。

土屋 貴裕 准教授 修士(経済学) 博士(安全保障学)

専門分野 財政・公共経済、国際政治経済学、地域研究(中国・東アジア) など
担当科目 政策研究講義 B
著書論文 「読んで見て理解する 国と地方の財政入門」(共著, 清文社), 「米中の経済安全保障戦略」(共著, 芙蓉書房出版) ほか多数
 税や財政、経済産業政策、経済安全保障政策、社会保障政策等の公共支出と、それが家計・企業・マクロ経済に与える影響を実際のデータに基づいて分析し、政策のあり方を研究する。

難波 敏彦 准教授 博士(経済学)

専門分野 ミクロ経済学、ゲーム理論、動経済学、機械学習
担当科目 行動経済学 A・B・C・D 行動経済演習
著書論文 The Intrinsic Value of Decision Rights and Reciprocity (Journal of Behavioral Economics and Finance 共著) "A Model of Pricing Data and Their Constituent Variables Traded in Two-sided Markets with Resale: A Subject Experiment" 2022 IEEE International Conference on Big Data proceedings
 ミクロ経済学における理論分析手法(消費者の理論、生産者の理論、ゲーム理論)を基礎として、行動経済学・コンピュータシミュレーション・経済実験を取り入れることにより、現実社会で使える経済学について講義する。

モリツ マル チ ュ ケ D. Moritz MARUTSCHKE 准教授 博士(学術)	
専門分野	データサイエンス、ビッグデータ、教育技術、ソフトウェア工学教育
担当科目	ビッグデータと機械学習
著書論文	"Quantifying Social Capital in Post-disaster Indonesia: Methodological Innovation by an AI-Based Language Model", Disasters, e12631, 2024 "Balanced, Unbalances, and One-Sided Distributed Teams - An Empirical View on Global Software Engineering Education", IEICE Transactions on Information and Systems Journal, Special Section: Empirical Software Engineering, Vol. E105-D, No. 1, pp. 2-10, 2022 ほか多数
電子化が進む経済において、その重要性が高まっている「ビッグデータ」の進化と、その活用のための技術としての人工知能及び機械学習の応用を紹介する。	

濱口 喜広 講師 博士(経済学)	
専門分野	マクロ経済学、環境経済学、政治経済学、国際経済学、観光経済学
担当科目	マクロ経済学
著書論文	Pollution havens and agglomeration: The effect of globalization and technological spillover. Applied Economics. ほか多数
マクロ経済学の基礎理論に立脚して、日本や世界の経済動向を把握する分析能力を養成すると共に、持続可能な発展や経済のグローバル化など応用マクロ経済学の諸問題についても考察する。	

鈴木 貴之 准教授 博士(技術経営)	
専門分野	イノベーション研究、マーケティング研究
担当科目	マーケティング論
著書論文	顧客満足度を与える影響要因の同定 (日本経営システム学会 2018年5月) ほか多数
マーケティングの基本用語及び基礎理論を習得することを目的とする。伝統的なマーケティングと新しいマーケティングの考え方の両方について学び、実務に応用できるようにする。	

神田 正樹 准教授 博士(商学)	
専門分野	マーケティング、消費者行動論、マーケティングリサーチ
担当科目	経営学特殊研究
著書論文	「マーケティングにおけるエンゲージメント市場形成に向けた価値の共創」 同文館出版、2023年、単著。 「サービス・ドミナント・ロジックの核心」(第9章「アクター・エンゲージメント」担当) 同文館出版、2021年、共著ほか多数。
現代の経営環境の変化に即して、DXと組織改革(担当:新長)、データサイエンスに基づくマーケティング分析(担当:神田)、経営学や流通の理論を応用した実践的な分析方法(担当:田口)をそれぞれ学修する。	

税理士養成コース

中村 政温 特任教授 経営学修士	
専門分野	租税法、会計実務
担当科目	租税論演習 租税実務 新会計基準と法人税 租税論 A・B 租税制度論
著書論文	「ベンチャー経営成功のバイブル」(共著、清文社) 「資本等取引をめぐっての会計と租税(改訂版)」(共著、清文社)
法人税の課税所得の計算の解説と最新の会計基準の解説。具体的には、実務に関わる租税と会計の違いを新会計基準を中心に解説するとともに、法人税申告書の記載の方法の解説。	

フ ケイ 付 馨 教授 博士(経営学)	
専門分野	財務会計、国際会計、知的資産会計、統合報告
担当科目	会計学研究 会計学演習
著書論文	「統合報告革命」(共著、税務経理協会) 「会計研究の系譜と発展」(共著、千倉書房) ほか多数
社会経済の発展に伴い、企業の在り方が変化し、企業会計もそれに応じて変化しつつある。本講義は基礎文献を渉猟しながら、学術と実務の最新動向を掴み、会計学の諸問題を解決する力を育む。	

藤川 義雄 教授 修士(経営学)	
専門分野	無形資産の識別に関する会計問題
担当科目	財務諸表論研究 会計学特殊研究 会計学演習
著書論文	「現代会計の思潮」(共著、同文館出版) 「国際会計の基本問題」(共著、同文館出版) ほか多数
会計が果たすべき役割と企業経営に与える影響を念頭におきながら、現行の会計制度に残された課題と「あるべき会計」の姿を受講生と一緒に考察していきたい。	

村井 淳一 特任教授 修士(法学) 税理士	
専門分野	企業間利益移転、資本等取引に係る法人税
担当科目	租税法演習 租税法総論 租税手続法
著書論文	「租税訴訟と要件事実論」(共著:清文社)、「中小企業の会計に関する指針ガイドブック」(共著:清文社) ほか多数
租税法の基礎理論を前提としつつ、税目ごとの知識にとどまらず横断的な理解に主眼を置いて、現実の経済活動に租税法的確に当てはめるための理論的な思考力を身につけられるよう、議論し研究する。	

村田 淑子 教授 修士(アメリカ研究)	
専門分野	証券業界の自主規制と競争政策
担当科目	経済法 法情報処理
著書論文	「英国競争法の最近の動向—競争・市場庁の創設を中心に」(「競争法の理論と課題」所収)、「欧州と日本における証券取引所グループの合併と競争法」(同志社法学71巻1号) ほか多数
「経済法」では、主にカルテル規制を中心に独占禁止法の問題を検討する。「法情報処理」では、法学部出身者以外による法学の修士論文作成に必要なスキルの習得を目指す。	

色川 豪一 講師 修士(法学)	
専門分野	民法(家族法)、離婚後の面会交流、遺骨の帰属、フランス法と比較研究
担当科目	民法総則
著書論文	「遺骨の帰属—死者と親族関係にない者が関わる事案—」(2020)、「嫌いなならない法学入門」(第6章「家族法」) ほか多数
民法の条文の意味内容と関連する判例・学説について把握したうえで、受講者が主体となって判例研究を行い、民法に関する基本的な知識を習得する。	

浦川 源二郎 講師 博士(法学)	
専門分野	退去強制をめぐる法問題、恩赦/pardonの基礎理論
担当科目	行政作用法
著書論文	「不法移民と時間の関係の法的検討」(広島大学リポトリ)「所有論から考察する非正規滞在者の地位」(広島法学44巻4号) ほか多数
行政法全体と関わる一般法理や、行政の対外的活動に関する法的問題について学ぶ。	

池井 優佳 講師 会計修士(専門職)	
専門分野	監査
担当科目	監査論
著書論文	「監査品質の地方分権化」(「千里山商学」第70号、pp.1-23、2017年)。 「監査市場における寡占と競合に関する研究」(「千里山商学」第71号、pp.1-32、2018年)。
監査人の特定の業種における専門性が、監査の品質に与える影響の分析。	

経営学研究科

Graduate School of Business Administration

京都太秦キャンパス

経営管理専攻(ビジネススクール) 修士課程 [修士(経営学)]

Major in Business Administration [Master of Business Administration]

デジタル化、AIなどの技術革新、環境・社会への意識の高まりにより予測が難しい時代において、変化に対応し、イノベーションを生み出す人材を養成するため、実務家や研究者からなるグローバルな教授陣が、経営・経済学に加え、DXなどの先端領域を教え、多岐にわたる専門知識と論理的思考力のある人材を育成します。具体的には、既にエンジニアバックグラウンドのある社会人等に対しては、経営管理学の基礎を十分に身につけて企業経営全般に関わる意思決定と実行が担当できる経営人材へと養成します。文科系人材に対しては、今後のビジネスモデル構築、新商品・サービスの供給、社内資源の効率活用・業務運営に欠かすことのできないテクノロジーに関する正確な知見を身につけて、既存概念や古い経営手法にとらわれない企業変革に貢献できる人材へと養成します。

めざすこと

- ① 経営者としてグローバルに通用する汎用性・実践性の高い人材の育成
- ② プロフェッショナルとして社会に必要とされる専門性の高い人材の育成



経営学研究科では、経営管理専攻(ビジネススクール)のみの募集を行います。本専攻は、激変する国際的な経営環境の中でレジリエントに対応できる経営者を育成することを目指しています。まず、経営学の基礎的知見を修得した後に、DX経営・ESG投資・ブランディング・ものづくり経営などの先端的知見やイノベティブな技術の開発・管理の方法を学んでもらいます。また、ビジネススクールには珍しく、毎週2時間の研究指導の時間を設けています。研究指導は「対話」形式で行われ、専門の講義で学んだ、先端的ではあるが断片的な知識を1つの問題解決に向けて統合する訓練をします。社会人の修学を支援するため、土曜日と平日の夜間に開講し、オンラインも含めた柔軟な形式で開講します。

経営学研究科長 徳賀 芳弘

研究内容や教育内容

近年はVUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity) の時代と言われており、将来予測が困難な状況にあります。VUCAの深化と併行して、デジタル化は急速に進展し、またAI・ITの技術革新が生活や産業に浸透し、ビッグデータの利用も容易になりました。他方で、SDGsやESGについての意識がグローバルに共有されつつあります。

経営者はこのような急激な経営環境や人々の意識の変化に柔軟に対応しなければなりません。変化が常態となった現状において、変化に対応できる汎用性の高いスキルを持った経営人材が求められています。



京都太秦キャンパス Future Center



本ビジネススクールにおいては、コミュニケーション・スキルやデータ解析スキルの獲得はいうまでもなく、修士論文の執筆指導においては、多数の専門知識の深化のみならず、それら相互の関係性を理解して、これらを統合する論理的思考や実践知を鍛えます。このことは、本ビジネススクールが、「修論を課さない専門職修士制度を採用していない」理由でもあります。

講師に関しましては、本学の精鋭に加えて、各分野でグローバルに活躍されてきた実務家や研究者を選び抜き、わが国でトップクラスの教授陣を揃えることができました。講義は日英のハイブリッド方式ですが、英語開講科目の履修のみで修了できる講義数を用意しています。

グローバルな視点を持ち、 新たな時代で活躍できる経営人材を養成

デジタル化の加速、AIなどの技術革新、SDGsやESGへの意識の高まりなどにより、企業を取り巻く環境が変化し続け、将来の予測が困難な時代となっています。本研究科では、時代と人々の意識の変化に対応し、イノベーションを生み出す人材を養成します。教員はグローバルに活躍してきた実務家や研究者で構成され、経営・経済学の知識やビジネス分析スキルに加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）やデータサイエンスなどの「先端領域」を学ぶことができ、さらに多様な専門知識を深め、相互関係を理解し統合する論理的思考力を修得します。

めざすキャリア

- | | | |
|---------------------------------------|---|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 企業の経営者、経営幹部 | <input type="checkbox"/> ベンチャーキャピタリスト | <input type="checkbox"/> 銀行家、投資銀行家 |
| <input type="checkbox"/> 起業家 | <input type="checkbox"/> 企業や金融機関のリスクマネージャー | <input type="checkbox"/> ファンドマネージャー |
| <input type="checkbox"/> CFO（最高財務責任者） | <input type="checkbox"/> CIO（チーフインフォメーションオフィサー） | <input type="checkbox"/> 経営コンサルタント |

CURRICULUM

カリキュラム

経営学研究科経営管理専攻の養成する人材像及び目的を実現するために、必要な授業科目及び研究指導を体系的・組織的に実施する教育課程を編成します。本専攻のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりです。

1. 授業科目を「コア科目」、「応用科目」及び「演習科目」の3つに分け、体系的に編成された教育課程を1年次から積み上げる形で履修できるようにする
2. 研究指導教員（スーパーバイザー）の指導の下で、学部時代の専門が理系の場合、文系で経済経営の場合、及び文系のその他の場合に分けて、それぞれが経営管理専攻で開講される応用科目・演習科目をスムーズに履修できるように、コア科目、既存の経済学研究科の開講科目、経済経営学部で開講されている科目の履修を促す
3. 1年生の段階から学位論文仮題目を設定し、研究手法、論文執筆方法を基礎から学ぶ。また、論文審査の客観性・透明性の確保や研究水準の向上を図る観点から、本学教員や院生が参加可能な「中間報告会」、及び「最終口頭試問」での報告と討論を義務化し、段階的指導を行う

コア科目	<input type="checkbox"/> 経営戦略 <input type="checkbox"/> ファイナンス <input type="checkbox"/> マーケティング <input type="checkbox"/> アカウンティング <input type="checkbox"/> 人的資源管理 <input type="checkbox"/> アントレプレナーシップ <input type="checkbox"/> 技術管理 <input type="checkbox"/> 経済学 <input type="checkbox"/> データ解析
-------------	---

応用科目	<input type="checkbox"/> DX経営戦略 <input type="checkbox"/> 企業変革 <input type="checkbox"/> グローバル経営 <input type="checkbox"/> ブランドマネジメント <input type="checkbox"/> ESG論 <input type="checkbox"/> M&A <input type="checkbox"/> 資産運用論 <input type="checkbox"/> 国際財務報告 <input type="checkbox"/> 国際金融 <input type="checkbox"/> イノベーション <input type="checkbox"/> CSV <input type="checkbox"/> 税法概論 <input type="checkbox"/> 企業改革税制 <input type="checkbox"/> 税務会計 <input type="checkbox"/> サステナビリティ経営 <input type="checkbox"/> 国際課税 <input type="checkbox"/> 国際経済学	<input type="checkbox"/> 比較会社法 <input type="checkbox"/> 異文化コミュニケーション <input type="checkbox"/> 技術開発 <input type="checkbox"/> 経営管理特殊講義I ・ビジネスデザイン <input type="checkbox"/> 経営管理特殊講義II ・データサイエンス <input type="checkbox"/> 経営管理特殊講義III ・リーダーシップとコミュニケーション <input type="checkbox"/> 経営管理特殊講義IV ・ものづくり経営学 <input type="checkbox"/> 経営管理特殊講義V ・フューチャーデザイン ・ヒンドゥーとインド文化 <input type="checkbox"/> 経営管理特殊講義VI ・国際政治学
-------------	---	---

演習科目	<input type="checkbox"/> 研究指導
-------------	-------------------------------

ADMISSION POLICY

求める人物像

経営学研究科は、グローバルな視点を持ち、新たな時代で活躍できる経営人材を養成することを目指しているため、具体的には、次のような資質と能力を持つ学生を求めています。

1. 経営管理の理論・実践を修得したいという強い意欲を有している者
2. 国際的に通用する修士課程学位の授与のため、高い英語力を有している者
3. 新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材の育成を目的とした教育課程とプログラムに対して、旺盛な知的意欲と社会的役割をもって参加し、相互に切磋琢磨できる資質を有する者
4. 幅広い教養と経営学など専門分野について基礎知識・能力を有し活用できる者

FACULTY

教員紹介

小野里 光広 教授 修士(法学)
修士(国際経営学)

専門分野 比較会社法

担当科目 比較会社法

著書論文 「アメリカ法におけるESG情報開示とその訴訟」『国際取引法学会』第8号、49-60頁、2023。
「イギリス法における取締役の経営判断についての責任否定の枠組み」『国際商事法務』第50巻2号、166-171頁、2022。

イギリス会社法を中心として取締役の義務と責任について、日本法やアメリカ法などと比較しながら研究を行っている。会社法におけるコーポレート・ガバナンス分野について、比較法的観点から検討していきたい。

加藤 康之 教授 経済学博士

専門分野 ファイナンス理論、金融工学、ESG投資

担当科目 ファイナンス ESG論 資産運用論 研究指導

著書論文 「ESG投資の研究—理論と実践の最前線—」(編著)一灯舎、2018年。
「社会的リターンは経済的リターンにつながるか?—因果関係モデルによるESG投資の未来シミュレーション分析—」『証券アナリストジャーナル』第60巻2号、67-79頁、2022。(共著)

現在は、主に以下の分野を研究。
(1) 機関投資家の投資戦略
(2) 企業のESG経営とリスクマネジメント
(3) ESG投資における社会的インパクトと経済的価値

清水 裕子 教授 博士(経営管理)

専門分野 国際経済学、経済政策論、環境経済

担当科目 国際経済学 研究指導

著書論文 Blowing Hot Air on the Wrong Target? Critique of the fossil fuel divestment movement in higher education. *Canadian Electronic Library*, 2016.
The Locavore's Dilemma: In Praise of the 10,000-Mile Diet. *The Independent Review*, 17(4), 603-605, 2013. (共著)

グローバル化の発展とその経済・社会・環境への影響を、国際貿易(特にサプライチェーン)の視点から分析・研究。歴史的観点や公共政策、環境政策もカバーし学際的に研究。

徳賀 芳弘 教授 博士(経済学)

専門分野 国際会計、財務会計、企業分析

担当科目 研究指導

著書論文 「国際会計論—相違と調和—」中央経済社、2000年。
Accounting Regulation in Japan: Evolution and Development from 2001 to 2015 (1st ed.), Routledge, 2019. (共著)

外生的な会計基準(IFRS)が導入された場合に導入国において発生するコンフリクトと導入国政府・企業のコンフリクト解消行動の分析。

名和 高司 教授 経営学修士

専門分野 グローバル経営、成長戦略、イノベーション、企業変革、リーダーシップ

担当科目 経営戦略 アントレプレナーシップ DX経営戦略 企業変革 グローバル経営 GSV

著書論文 「バーバス経営—30年先の視点から現在を捉える—」東洋経済新報社、2021年。
「経営改革大全—企業を壊す100の誤解—」日本経済新聞出版社、2020年。

バーバス経営の実践と、その牽引力となるイノベーションに関する研究。

森 一彦 教授 社会学修士

専門分野 ブランドマネジメント、マーケティング、サービスデザイン

担当科目 マーケティング ブランドマネジメント 研究指導

著書論文 「インダストリーイノベーション時代のブランディング—「モード・シフト」するブランディングからの問題提起—」『マーケティングジャーナル』第39巻1号、6-23頁、2019。
「デジタル・トランスフォーメーションと行動喚起型広告コミュニケーション—コンテンツとしての広告概念の可能性に向けて—」『日経広告研究所報』第53巻5号、3-9頁、2019。

デジタル化による社会・経済・産業・企業などの変化に並行して、(1) 企業の目的や存在意義(バーバス)からのブランディング、(2) 新しいサービスにおける動き(S-DL、サービスデザイン)からのマーケティング、(3) 人間の枠組みからのクリエイティブ・アプローチ(デザイン思考、アート思考)などをテーマに研究している。

山本 名美 教授 経営学修士

専門分野 SNS・AI時代のコミュニケーション、リーダーシップ、メディア論、ビジネス・ストーリーテリング

担当科目 経営管理特殊講義Ⅲ：リーダーシップとコミュニケーション

著書論文 テレビ東京報道局編著「スミスの本棚—新しい自分が見つかる読書—」日経BP社、2013年。(共著)
テレビ東京報道局編「ガリアの夜明け 闘う100人」日本経済新聞社、2005年。(共著)

SNS時代のコミュニケーション論、メディア論/ビジネス・ストーリーテリング/ステークホルダー・リレーションズ

GAUTAM RAY 教授 MA(Economics) and Ph.D.; LL.B.; M.Sc.(Chemistry)

専門分野 Social and Cultural Resources for Inclusive and Sustainable Development of Human Societies; Supply Chain Management

担当科目 経営管理特殊講義V：ヒンドゥーとインド文化

著書論文 Modeling Transportation in General Equilibrium. In *Transportation, Knowledge and Space in Urban and Regional Economics*, 47-76, Edward Elgar Publishing, 2018.
ASEAN-India Economic Partnership for Growth and Inclusive Development in the Region. In *Economic Integration and Regional Development: The ASEAN Economic Community* 45-57, Routledge, 2018.

Supply Chain Management and Hindu Spirituality and Indian Culture, the two courses I teach, have been designed to promote liberal arts education in our school.

井川 佳実 准教授 博士(経済学)

専門分野 組織行動、グループ経営、イノベーション、経済安全保障

担当科目 研究指導

著書論文 「中小企業の知識移転を促進する境界活動のマネジメント」『経済論叢』京都大学経済学会, 第197巻第1号 2023年2月, 35-50頁。
「Japan and the European Union」鈴木均, 鈴木悠, 井川佳実. [Encyclopedia of European Union Politics] (Oxford University Press, 2021年)

企業間関係をベースにした、企業成長における知識移転の分析。イノベーションの継続。新しい予防医療サービスを普及させる行政の仕組み構築についての研究。

ゴキ 呉 綺 准教授 博士(経営学)

専門分野 管理会計、環境会計

担当科目 サステナビリティ経営 研究指導

著書論文 Material Flow Cost Accounting (MFCA) for the Circular Economy: An Empirical Study of the Triadic Relationship between MFCA, Environmental Performance, and the Economic Performance of Japanese companies. *Journal of Environmental Management*, 303, 114219, 2022. (共著) Environmental Management Control Tools for Promoting Sustainable Consumption and Production in Thai and Vietnamese Companies. *Global Environmental Research*, 25 (1&2), 51-56, 2021. (共著)

企業のサステナビリティ会計・経営に関する実証研究。現在は、サーキュラーエコノミーを指向する環境マネジメント・コントロール・システムの構築およびサステナビリティ会計の国際的研究を課題に取り組んでいる。

モリツ マル チ ュ ケ
D. Moritz MARUTSCHKE 准教授 博士(学術)

専門分野 データサイエンス、ビッグデータ、教育技術、ソフトウェア工学教育

担当科目 経営管理特殊講義II：データサイエンス

著書論文 "Quantifying Social Capital in Post-disaster Indonesia: Methodological Innovation by an AI-Based Language Model", *Disasters*, e12631, 2024
"Balanced, Unbalances, and One-Sided Distributed Teams - An Empirical View on Global Software Engineering Education", *IEICE Transactions on Information and Systems Journal, Special Section: Empirical Software Engineering*, Vol. E105-D, No. 1, pp. 2-10, 2022 ほか多数

経営学ではますます電子化が進んでおり、企業ではデータ駆動型判断を行う機会が増えている。これらの分野でのデータの知識、収集方法、倫理、アルゴリズムを紹介する。

有賀 裕二 特任教授 博士(経済学)

専門分野 ミクロ経済学、進化経済学、社会経済物理学

担当科目 ミクロ経済学 経済理論研究講義 A 経済学

著書論文 *Evolutionary Economics*, Springer Nature, 2024 (単著) *Digital Designs for Money, Markets, and Social Dilemmas*, Springer Nature, 2022 (編著)

人工知能市場シミュレータの設計からエージェントベースモデリングを研究するほか、エージェントの意思や目的がダイレクトに支配しない確率過程モデリングを研究している。

西條 辰義 特任教授 博士(経済学)

専門分野 フューチャー・デザイン

担当科目 経営管理特殊講義V：フューチャー・デザイン

著書論文 「フューチャー・デザイン」日経、近刊

現代と将来世代の「しあわせ」をめざす仕組みのデザイン。

村井 淳一 特任教授 修士(法学) 税理士

専門分野 企業間利益移転、資本等取引に係る法人税

担当科目 租税法演習 租税法総論 租税手続法

著書論文 「租税訴訟と要件事実論」(共著：清文社)、「中小企業の会計に関する指針ガイドブック」(共著：清文社)ほか多数

租法の基礎理論を前提としつつ、税目ごとの知識にとどまらず横断的な理解に主眼を置いて、現実の経済活動に税法を的確に当てはめるための理論的な思考力を身につけられるよう、講義し研究する。

山田 浩史 特任教授 経営学修士

専門分野 国際会計、ディスクロージャー

担当科目 アカウティング

著書論文 「のれんの減損テストのためのIASBのヘッドルーム・アプローチ」『同志社商学』第73巻第3号、89-126頁、2021。
「四半期開示の見直し概要と今後の法令・基準等改正の課題」『週刊経営財務』No.3589、34-47頁、2023。

専門は国際会計とディスクロージャー。現在は以下のテーマを研究。
(1) 企業結合とのれんの会計基準の国際的なコンバージェンス
(2) 我が国の四半期開示の見直し
(3) サステナビリティ開示の国際的なコンバージェンス

有福 英幸 特任教授(非常勤) 学士(工学)

専門分野 共創、バックキャスト、ファシリテーション、ワークショップ

担当科目 経営管理特殊講義I：ビジネスデザイン

著書論文 「授業力&学級経営力「特集 どうすれば話し合いがもっとうまくいく!」」明治図書、2022年。(共著)
「発電設備産業での未来シナリオとフューチャー・デザインに関する研究」(共著)日本材料学会、JCOSAR2019, 2019。

専門は、共創プロセスのデザインとファシリテーション。特に「バックキャスト」アプローチによる社会課題の解決や、新規事業の創出を得意とし、共創を促進する人材育成に展開。

伊藤 友則 特任教授(非常勤) 経営学修士

専門分野 企業金融、M&A

担当科目 M&A

著書論文 「クロスボーダー M&Aと経営」「一橋ビジネスレビュー」第60巻4号、28-44頁、2013。
「日本企業のクロスボーダー M&A - 日本たばこ産業の事例に見る10の成功要因」『一橋ビジネスレビュー』第60巻1号、92-106頁、2012。

(1) 日本企業のM&Aの成功要因
(2) 日本における資本コストと資本構成
(3) CSV経営と資本市場

木谷 哲夫 特任教授(非常勤) 経営学修士(専門職)

専門分野 イノベーションマネジメント、アントレプレナーシップ、ベンチャーファイナンス

担当科目 イノベーション

著書論文 「成功はすべてコンセプトから始まる」ダイヤモンド社、2012。
「ケースで学ぶ実践・起業塾」(編著)日本経済新聞出版社、2010。
「コレクティブ・アクションと業界標準」『経営情報学会誌』第18巻1・2号、2009。

アントレプレナーシップ教育に長年従事している。イノベーション理論の変遷とその時代背景に関心を持っている。

鈴木 寛之 特任准教授(非常勤) 博士(会計・金融)

専門分野 管理会計、原価計算

担当科目 アカウティング

著書論文 Preparing for serendipity: an illustrative analysis of participation in the field. *Accounting, Auditing & Accountability Journal*, 37(3), 816-839, 2024. (共著) Investment centre manager's multiperiod fairness perceptions and intertemporal dependency. *Accounting & Finance*, in press.
「京セラ・アムールバ経営と経営環境の変化 - 責任会計論と管理者行動の観点から -」アムールバ経営学術研究会編「アムールバ経営の進化 - 理論と実践」所収、中央経済社、211-232頁、2017年。

管理会計に関する日本企業の実務を研究対象とし、インタビュー調査などの定性的手法を用いて、特に会計情報と人間行動や文化社会との関係性に注目して研究。

谷口 隆義 特任教授(非常勤) 博士(経済学)

専門分野 会計制度、税制

担当科目 企業改革税制

著書論文 「ミャンマー会計制度の研究」中央経済社、2019年。
「ミャンマーにおける企業会計の現状と課題 - 軍事政権の廃止 -」『国際会計研究学会年報』2017年度第1・2合併号、147-159頁。

(1) アジア諸国の会計制度に研究
ミャンマーを中心に会計制度の歴史を検証し、その運用実態を調査。
(2) 企業改革税制
組織再編税制を中心にして、企業の周辺環境の変化に対応し、または戦略的に自ら体制整備を行う場合の税制検討。

灘原 壮一 特任教授(非常勤) 理学博士

専門分野 分析化学、半導体プロセス技術

担当科目 技術開発

著書論文 「酸化・拡散プロセスのグリーン化」服部毅編著「シリコンウェハ表面のグリーン化技術」所収、リアライズ社、2000年。
Effects of BC13 Addition to Cl2 Gas on Etching Characteristics of GaN at High Temperature. *Journal of Vacuum Science and Technology B, Nanotechnology and Microelectronics: Materials, Processing, Measurement, and Phenomena*, 37(2), 021209. (共著)

半導体産業をベースとして、技術開発をビジネスとして成功に導くためのプロセス、組織、文化、外部連携などイノベーションマネジメントについて取り組む。

研究科紹介

西口 敏宏 特任教授 (非常勤) 社会学博士

専門分野 経営学、ネットワーク論、組織間関係論、新公共経営

担当科目 経営管理特殊講義Ⅳ：ものづくり経営学

著書論文 「防衛調達論」中央経済社、2022年。(共著)
「コミュニティー・キャピタル—中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界—」有斐閣、2016年。(共著)

経営環境の激変する中、プレーヤー数は激増し、変化する。他方、一足先すら読めない状況が続く「不可知への備え」が要請される。こうした今日的課題にいかに対処すべきか近年のケースをもとに探求する。

Ph.D. Development Study, Cornell
平岡 理恵 特任教授 (非常勤)

専門分野 Human Development, Public Policy, Development Financing

担当科目

著書論文 How can Pakistan achieve better education and learning outcomes through effective and quality local public spending? (2020)

How to build human capital to achieve economic development, Public policy on science and technology development, and towards net zero economy.

藤本 隆宏 特任教授 (非常勤) 経営学博士

専門分野 技術・生産管理、進化経済学

担当科目 経営管理特殊講義Ⅳ：ものづくり経営学

著書論文 「製品開発力—自動車産業の組織能力と競争力の研究 (増補版)」ダイヤモンド社、2009年。(共著)
「生産マネジメント入門 (Ⅰ) 生産システム編」日本経済新聞社、2001年。
「生産マネジメント入門 (Ⅱ) 生産資源・技術管理編」日本経済新聞社、2001年。

生産・開発管理 (Production and Development Management) を「顧客へ向かう付加価値 (設計情報) の流れを作るものづくり経営学」と規定し、その理論的・実証的分析を行う。理論的には、産業システムの進化経済学分析枠組を探究している。

三谷 英彰 特任教授 (非常勤) 学士(経済学)

専門分野 国際税務、国際会計

担当科目 国際課税

著書論文 「グローバル時代における国際交流のあり方と日韓連の国際関係事業の今後の方向性」2023年。

税務分野では実務に携わるとともに国際課税と租税法全般の研究を進めており、会計分野では、日本以外の会計基準の実務・研究を行っている。

森棟 公夫 特任教授 (非常勤) 博士(経済学)

専門分野 計量経済学、統計学

担当科目 データ解析

著書論文 「統計学入門」新世社、1990年
「The t test in a Structural Equation», *Econometrica*, vol.57, 1989.

計量経済学における推定および検定に関する理論的な研究

守屋 貴司 特任教授 (非常勤) 博士(社会学)

専門分野 経営学・社会学 (人事管理論、人的資源管理論)

担当科目 人的資源管理

著書論文 「人材危機時代の日本の「グローバル」人材の育成とタレントマネジメント—見捨てられる「日本・日本企業」の処方箋—」見洋書房、2020年。
「日本の中小企業における外国人材による「働き方改革」と現状と改善策」『商工金融』2019年04月号、18-33頁。

外国人財活用によるダイバシティマネジメントの展開や京都企業経営を研究。

山田 善隆 特任教授 (非常勤) 会計学修士

専門分野 会計基準 (日本基準・IFRS)、国際サステナビリティ報告基準、監査実務

担当科目 国際財務報告

著書論文 「IFRS会計学基本テキスト(第7版)」中央経済社、2022年。(共著)
「内部統制監査と財務諸表監査の関係性からの内部統制報告制度の将来像に関する一考察」『現代監査』第25号、104-112頁、2015年。

下記領域について実務家の視点から研究。
(1) 会計基準の国際比較、会計基準の実務適用及び財務報告全般
(2) 財務報告以外の企業報告
(3) 財務諸表監査、内部統制監査、その他保証業務及び不正調査業務

吉田 敏 特任教授 (非常勤) 博士(工学)

専門分野 技術経営、設計理論、建築生産

担当科目 技術管理

著書論文 「建築ものづくり論—Architecture as Architecture—」有斐閣、2015。(共著)
「技術経営—aMOTの体系と実践—」、理工図書、2012。(編著)
「Beyond Innovation—「イノベーションの議論」を超えて—」丸善プラネット株式会社、2009。(共著)

製品やサービスを創る設計者や生産者が、どのような傾向の思考を持ち、どのような強みや弱みがあるのか、論理的に考えていくことに取り組んでいる。

ウ ス ビ サ コ
Oussouby SACKO 特任教授 (非常勤) 博士(工学)

専門分野 コミュニティ論、建築計画

担当科目 異文化コミュニケーション

著書論文 「現代アフリカ文化の今—15の視点から、その現在地を探る—」(編著) 青幻舎、2020年。
The Involvement of Local Communities in the Conservation Process of Earthen Architecture in the Sahel-Sahara Region: The Case of Djenné, Mali. *Built Heritage*, 5(1), 26, 2021.

「居住空間」「京都の町家再生」「コミュニティ再生」「西アフリカの世界文化遺産 (都市と建築) の保存・改修」など、社会と建築空間の関係性を様々な角度から調査研究を進めている。

Ph.D in International Marketing
Parissa HAGHIRIAN 特任教授 (非常勤)

専門分野 Japanese Management and Marketing, Cross-cultural Management, Strategic Management

担当科目 マーケティング

著書論文 Overcoming Crisis - Case Studies of Asian Multinational Corporations. Singapore: World Scientific Publishing, 2023.

Doing GOOD Business in China—Case Studies in International Business Ethics. Singapore: World Scientific Publishing, 2021.

Japanese Management, International Management and Marketing, Cross-cultural Management and Communication.

Ph.D. in Social and Political Science
Tina BURRETT 特任教授 (非常勤)

専門分野 Political Science

担当科目 Global Politics

著書論文 Burrett, T. *Contemporary Prime Ministerial Leadership in Britain and Japan*, London, Palgrave Macmillan, 2023.

My research focuses on the intersection between the media and politics. Specifically, my publications analyse media freedom in Russia and Russia's international propaganda. I also work of political leadership in Britain, Japan and Russia.

人間文化研究科

Graduate School of Human Culture

京都太秦キャンパス

人間文化専攻 修士課程

価値観の多様化が進む中、人の生き方や社会システム、文化の機能などを再評価する研究が求められています。「文化研究」「社会情報」「心理学」の3つの領域を組み合わせることで、現代の課題にアプローチします。(公財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院に認定されており、臨床心理学コースでは「臨床心理士」と「公認心理師」の両方の受験資格が取得できます。また、文化研究コースと社会情報コースでは中学校教諭(社会)の専修免許が、加えて文化研究コースでは高等学校教諭(地理歴史)の専修免許が取得できます。

めざすこと

人間や社会に対して深く理解でき、1つのことに突き抜けた高度専門職業人・研究者を養成します。



人間文化研究科で1つのことを突き詰めて、突き抜けた研究をしよう!

皆さんはなぜ大学院に行きたいと思っているのですか?もちろん「研究」するためですね。それでは「研究」とは何でしょうか?大学生の頃に気づいていたと思いますが、高校までの「勉強」は答えのある問題をできるだけ効率的に解くことでした。大学入試に合格するためにはかなりの時間「勉強」をしなければなりません。このような高校までの「勉強」とは違って、大学や大学院での「研究」は、まず自分で問題を見つけることから始まります。そしてその問題の答えをいろいろな方法で見つけようとしています。もしかしたら、そもそも答えがないかもしれません。しかしその問題を考え抜くプロセスが大切です。その問題を突き詰めて考え続けることで、気がついたら突き抜けた研究をしています。人間文化研究科はそういう1つのことを突き詰めて研究しようと思っている人を歓迎します。一緒に突き抜けましょう!

人間文化研究科長 佐藤 嘉倫

研究内容や教育内容

心理学コース



能力の限界を超えて —— 原田佑規 准教授

技術を用いることで人の能力を高めることを「人間拡張」と言います。例えば、眼鏡をかけることで視力を高めるのも人間拡張です。人間拡張は、リハビリ、スポーツ、教育などさまざまな分野で注目されており、今後の成長分野の1つであると予測されています。そこで、VRなどのサイバー技術と心理学実験を組み合わせることで、知覚・認知・運動の能力を高めるための基盤研究を行っています。

臨床心理学コース

「こころの問題で苦しむ人をどう支える?」を研究する —— 小山智朗 教授

こころの問題で苦しむ人たちに、どのように関われば良いのでしょうか?私は、単に問題を取り去るだけでなく、その苦しい体験が心の成長の機会となるためには、心理療法家としてどのように関われば良いのかを研究しています。



社会情報コース



メディアが他者同士の共感をつくるプロセスを解明 —— 君塚洋一 教授

映像や音楽などの作品にふれると、他人がつくったものなのに自分自身のそれと思える心情が表現されていて共感に至ることがあります。作品や広告などのメディアを通じた主観的経験によって未知の他者同士の感情が共有され、個人史に残る経験やアーティストとオーディエンスの一体感がつくられるプロセスを作品表現や社会史の分析により研究しています。

文化研究コース

過去の人びとの心の歴史を科学的に解明する —— 佐藤文子 教授

京都には多くのお寺や神社があり、毎日たくさんの観光客が訪れています。そこに残された建物や古文書、くり返されてきた祭りや作法は、人間の精神の歴史です。大学院では、専門的技術を駆使してそれらの歴史資料を観察分析し、現代人とは異なる過去の人びとの歴史を解明し、日本文化の古層についての理解を深めています。



文化・社会・人間の心を複眼的に追究。 高度な専門職業人の養成をめざします。

人々の価値観が揺らぎ、人間関係を形成する社会システムも人間の心の中も、従来の価値体系では解決策を見いだせない現代。人間の生き方、社会システムの在り方、文化の機能を多角的に解明する学問の構築が求められています。人間文化研究科は、「文化研究」「社会情報」「心理学」の3つの教育研究領域を有機的に連関させ、高度な専門職業人の養成を追究。臨床心理学コースは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院で、国家資格である「公認心理師」の受験資格も取得することができます。また、文化研究コースと社会情報コースでは中学校教諭(社会)の専修免許が、加えて文化研究コースでは高等学校教諭(地理歴史)の専修免許が取得できます。



〈文化研究領域〉

「文化研究コース」では、日本とアジアを中心とした文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の機能の諸相と特質を、文化、地理、歴史、思想、言語、文学等の側面から探究する。



〈社会情報領域〉

「社会情報コース」では、各種メディアにおいて情報技術が発達するとともに大きく変動しつつある現代社会と文化の動向を探り、そこに生じる新たな社会的諸問題を理論的・実践的に研究する。

〈心理学領域〉

家庭・学校・地域社会などにおける実際の課題を発見解決する人材を育成する「心理学コース」と、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識、そして技能を備えた専門家を育成する「臨床心理学コース」の2つがある。人間の心の機能とその形成過程を解明する。

臨床心理学コース | 対人援助のエキスパートへ高度な知識とスキルを養成

人間文化研究科の臨床心理学コースは、「臨床心理士」と「公認心理師」の両方の受験資格が取得できるように、カリキュラムが編成されています。また、これらの資格取得後に医療・教育・福祉など幅広い分野で活躍できるよう、実践的な力を身につけることも目指します。心理面接・心理検査についての高度な専門知識・技術だけでなく、心理的援助の専門家としての考え方・姿勢・心構えを学びます。

めざすキャリア

中・高等学校教育の担い手

- 中学校教諭(専修免許状/社会) ※文化研究・社会情報のみ
- 高等学校教諭(専修免許状/地理歴史) ※文化研究のみ

人々の精神的健康の担い手

- 臨床心理士
 - 公認心理師
- ※臨床心理学コースのみ

日本・アジアの文化と歴史を中心に研究する「文化研究コース」、現代の社会問題や情報メディアを研究する「社会情報コース」、認知・学習・発達・社会など心理学の各分野を研究する「心理学コース」、臨床心理士や公認心理師の受

験資格の取得をめざす「臨床心理学コース」(日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院)の4コースを設定。多様な領域の研究者が本科を構成し、複眼的な研究ができる環境を作っています。

<p>文化研究コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人間文化基礎特論 <input type="checkbox"/> 日本歴史文化特論 <input type="checkbox"/> 日本語文化特論 <input type="checkbox"/> 日本古典文学特論 <input type="checkbox"/> 文化人類学特論 <input type="checkbox"/> 民俗学特論 	<p>【演習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 日本歴史文化研究演習 <input type="checkbox"/> 日本語文化研究演習 <input type="checkbox"/> 日本古典文学研究演習 <input type="checkbox"/> 文化人類学研究演習
<p>その他選択科目多数</p>	

<p>社会情報コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人間文化基礎特論 <input type="checkbox"/> 政治社会学特論 <input type="checkbox"/> ジェンダー社会学特論 <input type="checkbox"/> 理論社会学特論 <input type="checkbox"/> コミュニケーション社会学特論 <input type="checkbox"/> マルチメディア特論 <input type="checkbox"/> 広告広報特論 <input type="checkbox"/> 環境社会学特論 	<p>【演習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 社会学研究演習 <input type="checkbox"/> コミュニケーション社会学研究演習 <input type="checkbox"/> 広告広報研究演習
<p>その他選択科目多数</p>	

<p>心理学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人間文化基礎特論 <input type="checkbox"/> 心理学研究法特論 <input type="checkbox"/> 認知心理学特論 <input type="checkbox"/> 発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) <input type="checkbox"/> 社会心理学特論 <input type="checkbox"/> 集団心理学特論 <input type="checkbox"/> 障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) <input type="checkbox"/> 実験心理学特論 <input type="checkbox"/> 計量心理学特論 <input type="checkbox"/> 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 	<p>【演習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 心理学研究演習
<p>その他選択科目多数</p>	

<p>臨床心理学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人間文化基礎特論 <input type="checkbox"/> 臨床心理学特論 <input type="checkbox"/> 臨床心理面接特論 (心理支援に関する理論と実践) <input type="checkbox"/> 臨床心理基礎実習 <input type="checkbox"/> 臨床心理実習 (心理実践実習) <input type="checkbox"/> 心理学研究法特論 <input type="checkbox"/> 認知心理学特論 <input type="checkbox"/> 発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) <input type="checkbox"/> 社会心理学特論 <input type="checkbox"/> 障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) <input type="checkbox"/> 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) <input type="checkbox"/> 心理療法特論 <input type="checkbox"/> 臨床心理関連行政論 <input type="checkbox"/> 心身医学特論 <input type="checkbox"/> 臨床心理学研究法特論 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> コミュニティ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) <input type="checkbox"/> 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 <input type="checkbox"/> 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 <input type="checkbox"/> 心の健康教育に関する理論と実践
<p>【演習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 臨床心理査定演習 (心理的アセスメントに関する理論と実践) <input type="checkbox"/> 臨床心理学研究演習 	<p>その他選択科目多数</p>

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

本研究科は、本研究科修士課程の履修に必要とされる基礎的な能力を有し、なおかつ次のような資質を備えた人を求める。

文化研究コースでは、日本の文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の態様とその特質を地理、思想、歴史、言語、文学等の側面から教育研究したい者。

社会情報コースでは、各種メディアによる情報伝達技術に関心を持ち、現代の社会と文化に関する幅広い興味を有し、そこに生じる社会的諸問題の解決に寄与する能力を身につけたいと考えている者。

心理学コースでは、人間として基本的な心理と行動を対象として教育研究したい者。

臨床心理学コースでは、人間の心に関する深い理解を基礎にして、臨床心理学を専門的に修得し、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識・技能を兼ね備えた心の専門家を目指す者。

心理学コース

有馬 淑子 特任教授 博士(人間科学)

専門分野 社会心理学

担当科目 心理学研究演習 社会心理学特論 集団心理学特論
産業・労働分野に関する理論と支援の展開

著書 〔集団と集合知の心理学〕(ナカニシヤ出版)
論文 〔極端化する社会〕(北大路書房) ほか多数

社会心理学の文献を読み、各自の問題意識に応じたテーマを設定して、修士論文を作成する。データ解析、テキスト分析などの実習を通じて、社会に活用可能な知識と技術を習得できるよう指導する。

行廣 隆次 教授 教育学修士

専門分野 心理統計学、認知心理学

担当科目 心理学研究演習 心理学研究法特論 計量心理学特論
実験心理学特論

著書 〔コネクショニスト・モデルと心理学一版のシミュレーションによる心の理解―〕(北大路書房) 〔ワーキングメモリ内の処理と貯蔵のトレードオフ―数の処理と空間処理を用いた検討―〕(〔人間文化研究〕) ほか多数

認知心理学や計量心理学分野から研究テーマを選び、先行研究を踏まえて実証的な研究を行い、修士論文を作成する。

神原 歩 准教授 博士(心理学)

専門分野 社会心理学、認知心理学

担当科目 認知心理学特論

著書 論文 〔暮らしの中の社会心理学〕(共著、ナカニシヤ出版) 〔読んでわかる社会心理学(ライブラリ読んでわかる心理学 10)〕(共著、サイエンス社) 〔態度が相反する他者への過度なバイアス認知を 錯視経験が緩和する効果〕(〔心理学研究〕) ほか多数

谷口 康祐 准教授 博士(文学)

専門分野 発達心理学、認知発達、視覚、判断過程

担当科目 人間文化基礎特論 発達心理学特論

著書 〔学校現場で役立つ 教育心理学〕(北大路書房)
論文 〔The Categorization of Objects With Uniform Texture at Superordinate and Living/Non-living Levels in Infants: An Exploratory Study〕(Frontiers in Psychology) ほか

自身の興味や関心に基づき研究課題を設定し、科学的な手法を用いて課題に取り組みるように指導する。

原田 佑規 准教授 博士(心理学)

専門分野 認知心理学、知覚心理学、実験心理学

担当科目 感情心理学特論

著書 論文 〔The effect of unusuiness on the functional field of view in unsafe scenes〕(Visual Cognition). 〔Quantitative evaluation of visual guidance effects for 360-degree directions〕(Virtual Reality) ほか多数

臨床心理学コース

田中 史子 教授 博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

専門分野 臨床心理学

担当科目 臨床心理実習 臨床心理学研究演習
臨床心理基礎実習 心理実践実習 臨床心理学特論

著書 〔物語 (tale) の臨床心理学〕(創元社)
論文 〔「矛盾、曖昧さ、荒唐無稽さを含んだ物語について―〕(Lévy-Bruhl)の「原始神話学」と臨床心理学の視点―〕など

修士論文作成においては、大学院生自身の関心にしたがい、臨床心理の実践につながる研究テーマを選択し、そのテーマの追求を通して心理臨床家としての姿勢を学べるよう指導している。

山 愛美 特任教授 博士(教育学)
臨床心理士

専門分野 深層心理学、臨床心理学

担当科目 臨床心理学研究演習 臨床心理面接特論
臨床心理実習

著書 論文 〔営業の深みへ〕(誠信書房) 〔黒の創造 香月泰男〕(遠見書房) 〔村上春樹、方法としての小説〕(新曜社) 〔心理療法家がよみとく「君の名は。」〕(新曜社) 他、日本人の精神性や文化に関する英文の論文のほか、ユング心理学に関する翻訳書も多数。

国内外の学術論文や著書などの文献を講読し、研究テーマを決定。各自の研究内容に関して、研究の目的、研究領域における位置付けを明らかにし、幅を広げる。

飯野 秀子 准教授 教育学修士
臨床心理士
公認心理師

専門分野 心理臨床学

担当科目 臨床心理基礎実習 臨床心理実習 臨床心理査定演習

著書 論文 〔ロールシャッパ法における、査定者の臨床イメージ体験のあり方と機能〕〔絵画表現の歴史から見たロールシャッパ法の陰影反応〕 ほか多数

上松 幸一 准教授 教育学修士
臨床心理士
公認心理師

専門分野 児童家庭福祉、心理アセスメント、対人援助技術

担当科目 臨床心理査定演習 臨床心理実習 臨床心理関係行政論

著書 論文 〔教育相談 一よわかる「教職エクササイズ―〕(共著・ミネルヴァ書房) 〔不登校児へのシステム論的視点を用いた介入―父子、母子合同箱庭を用いて―〕(家族心理学研究)

心理テストの演習や事例検討などを用いて、臨床心理の現場で即戦力として活躍できるよう、指導を行う。
授業では、「自分で考える力」と「助け合う力」が特に重要視される。

小山 智朗 教授 博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

専門分野 心理臨床学

担当科目 臨床心理面接特論 臨床心理学特論 心理実践実習

著書 論文 〔<私>を生きる心理臨床〕(単著・創元社) 〔主体生成プロセスをまなす観点提示の試み〕(共著・創元社) ほか多数

心理的な問題で苦しむ人たちにいかに関わるのかを実践的に学ぶ。また箱庭法(ハウムテスト、風景構成法)について習熟していく。いづれも受講者とのディスカッションによって学びを深める。

菱田 一仁 准教授 博士(教育学)

専門分野 臨床心理学

担当科目 臨床心理学基礎実習 臨床心理実習
臨床心理学研究法特論

著書 論文 〔人形遊びの心理臨床〕(創元社) 〔「遊び物」の観点から見た箱庭と箱庭療法〕 〔「遊び」の観点から見る箱庭と箱庭療法〕 〔人形の象徴性と心理臨床における人形のあり方について〕 など

不破 早央里 講師 博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

専門分野 臨床心理学、ユング心理学

担当科目 学校臨床心理学特論 臨床心理実習

著書 論文 〔箱庭療法の治癒へのプロセス〕(創元社) など

イメージを用いた心理療法、特に箱庭療法のプロセスについて研究を行っています。また、学校臨床に関する研究もを行っています。

社会情報コース

岡本 裕介 教授

学術修士

専門分野	コミュニケーション社会学
担当科目	コミュニケーション社会学研究演習 コミュニケーション社会学特論
著書論文	【コミュニケーション社会学入門】(共著:世界思想社) 【G.H.ミードの行動主義と「I」の他者性】ほか多数

コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。さまざまな社会的現象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。

君塚 洋一 教授

文学修士

専門分野	メディア論、表現文化論、広告広報論
担当科目	広告広報研究演習 広告広報特論
著書論文	【選曲の社会史—「洋楽かふれ」の系譜】(日本評論社) 【文化としてのテレビ・コマーシャル】(共著:世界思想社) 【イメージ編集】(共著:武蔵野美術大学出版局)ほか多数

メディア論、広告広報、ブランド、地域づくり、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。文献研究やサーベイとあわせ、メディアや地域の現場とのネットワークを活かした指導を行う。

佐藤 嘉倫 教授

博士(文学)

専門分野	社会学、ソーシャル・キャピタル論、社会的不平等論、社会変動論
担当科目	人間文化基礎特論 社会学研究演習
著書論文	【AIはどのように社会を変えるか】(東京大学出版会)、「ソーシャル・キャピタルと社会」(ミネルヴァ書房) 【Sociological Foundations of Computational Social Science (Springer) など

参加者一人一人の研究関心に沿った指導をして、優れた修士論文執筆につなげる。

関口 久雄 准教授

修士(社会学)
修士(学際情報学)

専門分野	メディア文化論
担当科目	マルチメディア特論
著書論文	【インターフェイス～コンピューターと対峙する時】(ひつじ書房) 【メディアのプリコラーージュ】(冬弓舎)、「テレビ史の忘れもの」(銀河書籍)ほか多数

文化研究コース

佐藤 文子 教授

博士(文学)

専門分野	日本古代史、日本宗教史、アジアの中の日本文化
担当科目	日本歴史文化研究演習 日本歴史文化特論
著書論文	【日本古代の政治と仏教—国家仏教論を超えて】吉川弘文館 2018年、「仏教がなくなるとアジア」(共編)勉誠出版、2014年

歴史学は、自分とは異なる時空を生きた人々の行動原理を知る他者理解のサイエンスである。過去の人々の活動痕跡を博覧し、昔の文法で書かれた書物や墨で書かれた文字を解読し、専門分析を進めることで、その先にある人々の生の実像を論じていく。

手塚 恵子 教授

文学修士

専門分野	文化人類学、民俗学
担当科目	文化人類学研究演習 文化人類学特論
著書論文	【中国広西壮族歌垣調査記録】(大修館書店)、 【京の襖 コモンズとしての保津川】(共著:ナカニシヤ出版)など

文化人類学は文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。これらの基本的な文献を学び、その方法論を生かしてフィールドワークを行う。そこで得たデータを分析することを通じて、民族誌もしくは論文を書き上げる。

丸田 博之 特任教授

博士(文学)

専門分野	日本語史、キリシタン資料、狂言、中国・朝鮮資料、語源、京言葉
担当科目	日本語文化研究演習 日本語文化特論
著書論文	【近世における「方言書」の見方について】(『近代語研究 21』)、「日葡辞書の編者とその周辺」(『国語国文』)ほか多数

先行研究を精査しながら、各人がいかなる現象を研究対象とするのかを十分検討した上でテーマを設定し、日本語学の問題点を明らかにすることに全力を注ぐことができるよう指導を行う。

金子 貴昭 准教授

博士(文学)

専門分野	近世出版史、近世文学、文化情報学、デジタル人文学
担当科目	人間文化基礎特論 日本古典文学特論
著書論文	【西川祐信「正徳ひな形」—影印・注釈・研究—】(共著、臨川書店)、「近世出版の板木研究」(単著、法蔵館)、「イメージデータベースと日本文化研究(バイリンガル版)」(共著、ナカニシヤ出版)

書誌学や徹底的な本文批判の実践を通じて、近世文芸や近世出版の諸問題を解く。それにより歴史文化研究、とりわけ古典文学研究のための基礎力を確立する。こうした研究にデジタルがどう関わっていくかについても考える。

佐々木 政文 准教授

博士(文学)

専門分野	日本近代社会思想史
担当科目	日本歴史文化研究演習 日本歴史文化特論
著書論文	【近代日本の思想変動と浄土真宗】(法蔵館)など

20世紀前半の日本における宗教と差別の相互関係について研究しています。

宮本 陽佳 講師

博士(文学)

専門分野	和漢比較文学、近世漢文学
担当科目	日本古典文学特論
著書論文	【澤田一齋の「水滸傳」講義をめぐって】(『日本中国学会報』第70集)、「[和刻三言] 採録篇に見える小説の評価について: 施訓者の序を手掛かりに」(『中国文学報』第93冊)

バイオ環境研究科

Graduate School of Bioenvironmental Sciences

京都亀岡キャンパス

博士課程前期／博士課程後期 バイオ環境専攻

未来の地球環境創出のためには、生命／食料／環境／農業についての総合的な「バイオ環境科学」を身につけることが必要です。2025年から2学科体制に変わる学部に合わせて、大学院もより統合的な教育・研究体制になります。FuBEIC（未来バイオ環境共創センター）を核にした総合的研究、ゲノム解析やビッグデータ解析を取り入れた最先端の演習、SDGs 関連の文理融合教育を行います。さらに、学内の4学部や他大学・研究機関などとの連携はもとより、OICK（オープンイノベーションセンター・亀岡）を中心に多くの企業や自治体との共同研究を進めることで、バイオ環境の維持・発展のための新技術開発から社会実装までを視野に入れた研究教育を推進します。

めざすこと

ヒトと多様な生物が共存するバイオ環境を維持・創出するプロフェッショナルを養成します。



未来の地球を救うのはバイオ環境科学

未来の地球を救うのはバイオ環境学です。未来の地球環境創出のためには、環境／農業／生命／食についての総合的な「バイオ環境学」を身につけることが重要です。バイオ環境学は、刻々と変化する地球環境の中で、自ら生物を観察し、作物を育成し、環境と生物の関係を生命科学の基礎知識を基に考えることで初めて身に付くものです。本研究科では、2領域統合実習、ゲノム解析など最先端の演習、SDGs の文理融合教育を行います。また、学内の4学部、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、多くの企業や自治体との共同研究を進め、バイオ環境の維持・発展のための基礎研究、新技術開発から社会実装までを視野に入れた教育・研究を推進します。未来の地球環境を考える意欲を持つ皆さん、ともにバイオ環境学のプロフェッショナルを目指しましょう。

バイオ環境研究科長 三村 徹郎

研究内容や教育内容

食と健康：健康寿命延伸に向けて、食品の機能性を多面的に評価する

健康な生活を維持増進するためには、生活習慣の中でもとりわけ食生活は重要であり、毎日食べている食品を単に栄養としてではなく、機能性成分を積極的に取り入れることで健康寿命を延伸できるように研究を進めています。さらに、亀岡市、医薬基盤研究所・国立健康栄養研究所とのコラボレーションで、コホート試験のデータから、運動も含めた生活習慣改善の提案を行っていきます。



環境と農業：水田生態系で多様な生物と共生する

アジアに広がる水田は、米の生産場所として食を支えると同時に、多様な生物との共生を実現してきました。生物多様性や生態系の回復が世界的な目標となっている現在、低投入持続型農業や有機農業などの取り組みと協働して、水田生態系のポテンシャルを活かし、より多くの生物と共生する環境を創出します。

地域食資源：京都の伝統農作物のゲノムを解明し、次世代の品種改良につなぐ

京都には、丹波の黒大豆や丹波大納言など、高品質な農作物があります。それらは昔から京都で受け継がれてきた在来品種が素材となっていてできあがった銘柄です。そうした伝統素材の特徴をゲノム解析等で解明し、品質の良さを残しつつ、今後の環境変動にも適応できる新品種の開発につなげることを目指します。



SDGs：河川とプラスチックごみ、微生物環境の関係を解き明かす

プラスチックによる海洋汚染は全地球的な問題です。陸域から海洋に至るプラスチックごみやマイクロプラスチックの流出起源や流出経路、生態系や健康への影響について、フィールドを中心としたマクロな視点とDNA分析や培養を中心としたミクロな視点から解明しています。農業地域からのプラスチック流出に着目し、環境先進都市「亀岡」の市民を巻き込んだ汚染問題解決を図ります。

[博士課程前期(2年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる バイオ環境技術者・研究者を養成します。

生物環境科学と応用生命科学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境（バイオ環境）の実現を目指すという教育理念に基づき、博士課程前期では「生物環境科学領域」「応用生命科学領域」の研究分野科目と2分野の関連科目が複合的に履修されるように構成されています。これらにより、「バイオ環境」の視点から複眼的思考ができるバイオ環境技術者・研究者を養成します。



めざすキャリア

高度なバイオ環境技術者・研究者

- バイオ関連企業
- 食品関連企業
- 公務員
- 環境関連企業
- 農業関連企業
- 博士課程後期進学

中・高等学校教育の担い手

- 中学校教諭(専修免許状・理科)
- 高等学校教諭(専修免許状・理科)

[博士課程後期(3年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる より高度なバイオ環境研究者・技術者を養成します。

生物環境科学と応用生命科学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境（バイオ環境）の実現を目指すという教育理念に基づき、博士課程後期では複眼的研究をさらに研究を深化・高度化させ、「バイオ環境」の新しい研究領域を開拓できる、企業の研究所やベンチャー企業でも、即戦力として先端的な研究や技術開発に取り組める、より高度なバイオ環境研究者・技術者を養成します。

◎ 社会人の受入 ◎

博士課程後期には社会人も受け入れます。ここでの社会人とは、博士課程前期(修士課程)修了者あるいはそれと同等の学力を有する者で、勤務先(所属事業所や企業の長)から同意を得ている者をいいます。社会人としての専業と両立できるように、週末や休暇期間を使った指導を行い、また、日常的には電子メールなどを活用した指導を行います。社会人の経歴を勘案して、試験の一部を免除することがあります。

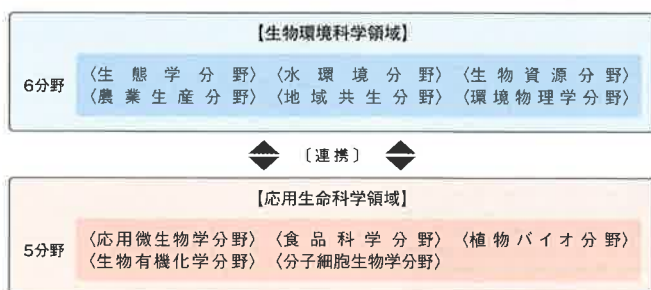
めざすキャリア

より高度なバイオ環境研究者・技術者

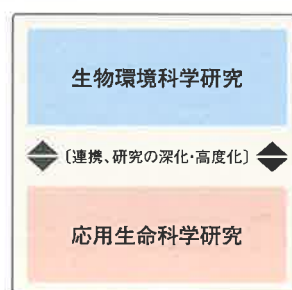
- バイオ関連企業
- 食品関係企業
- 公務員
- 環境関連企業
- 農業関連企業

バイオ環境の実現を目指すべく、より高度な専門性を身に付けた人材を養成します。

[博士課程前期]【バイオ環境専攻】高度なバイオ環境技術者・研究者の養成



[博士課程後期]より高度なバイオ環境研究者・技術者の養成



CURRICULUM

カリキュラム

■博士課程前期

研究分野 関連科目	【演習科目】 <input type="checkbox"/> 生態学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 水環境特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 生物資源特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 農業生産特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 地域共生特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 環境物理学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 応用微生物学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 植物バイオ特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 食品科学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 分子細胞生物学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 生物有機化学特別演習I~IV	【特別研究】 <input type="checkbox"/> 生態学特別研究 <input type="checkbox"/> 水環境特別研究 <input type="checkbox"/> 生物資源特別研究 <input type="checkbox"/> 農業生産特別研究 <input type="checkbox"/> 地域共生特別研究 <input type="checkbox"/> 環境物理学特別研究 <input type="checkbox"/> 応用微生物学特別研究 <input type="checkbox"/> 植物バイオ特別研究 <input type="checkbox"/> 食品科学特別研究 <input type="checkbox"/> 分子細胞生物学特別研究 <input type="checkbox"/> 生物有機化学特別研究
	科学英語	【演習科目】 <input type="checkbox"/> 科学プレゼンテーション演習I~II

専門基礎 科目	<input type="checkbox"/> 分子生命科学特論 <input type="checkbox"/> 生物機能開発特論 <input type="checkbox"/> 環境再生特論	<input type="checkbox"/> 生物・環境特論 <input type="checkbox"/> 農業生産特論 <input type="checkbox"/> 食品科学特論
------------	---	--

関連科目	<input type="checkbox"/> グリーンバイオ最先端技術特論 <input type="checkbox"/> 環境デザイン最先端技術特論 <input type="checkbox"/> 食農最先端技術特論 <input type="checkbox"/> インターンシップ A、B
------	--

■博士課程後期

<input type="checkbox"/> バイオ環境特別演習I~VI ※系統的なカリキュラムを特に設定せず、「特別演習」と「特別研究」を単位化することにとどめ、各自の研究に専念していただきます。	<input type="checkbox"/> バイオ環境特別研究
--	------------------------------------

開講時に名称が変更になる可能性があります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

■博士課程前期

1. 自然環境と科学の関わりや、農業のあり方に興味をもち、持続可能な地球環境と地域社会を構築していくための研究や産業に意欲をもって携わりたい者。
2. 最先端の生命科学、バイオ技術に強い関心を持ち、生命の成り立ちの解明、人類の健康や豊かな食のための研究や産業に意欲をもって携わりたい者。

■博士課程後期

生物環境科学研究と応用生命科学のより積極的な連携や複眼的研究をさらに進めて、「バイオ環境」というコンセプトでの新しい研究領域の模索をおこない、新しい環境・生命技術の創成をおこなおうとする者。

FACULTY

教員紹介

生物環境科学領域

生態学分野

<p>大西 信弘 教授 博士(理学)</p> <p>専門分野 動物生態学、地域研究</p> <p>【著書】保津の漁労「京の祇 コモンズとしての保津川」(ナカニシヤ出版, pp. 63-76, 2016) 【論文】インドアルナチャール・ブラデーシュ州、ウエスト・カメン県およびタウン県の鳥類相、ヒマラヤ学誌, 17, 113-119 (2016) アジアの稲作圏の農地生態系は、多様な野生生物の生息環境でもある。アジアの農地生態系に学び、身近な環境で生物多様性との共生を目指す。</p>	<p>丹羽 英之 教授 博士(地球環境学)</p> <p>専門分野 景観生態学、保全生態学、植生学</p> <p>【著書】「景観生態学」(共立出版、2022) 【論文】Niwa, H., & Kanaya, T. (2024). Distribution analysis of adult and larval Calopteryx japonica using unmanned aerial vehicle acquired water temperature distribution. River Research and Applications, 40(4), 627-640. 景観生態学をベースに自然環境を評価しマッピングしている。ドローンを使った新しい評価技術の開発にも取り組んでいる。</p>	<p>大秦 正揚 講師 博士(農学)</p> <p>専門分野 昆虫生態学、動物行動学、応用昆虫学</p> <p>【論文】Host plant choice determined by reproductive interference between closely related butterflies. The American Naturalist 196: 512-523. (2020) 昆虫を中心に、生物の環境への適応や繁殖行動の研究を行っている。</p>
---	--	---

水環境分野

<p>高澤 伸江 准教授 博士(理学)</p> <p>専門分野 化学海洋学、生物地球化学</p> <p>【著書】「南極・北極の百科事典」国立極地研究所編(丸善, 2004) 【論文】Kasamatsu, N., S. Kawaguchi, S. Watanabe, T. Odate, and M. Fukuchi, Possible impacts of zooplankton grazing on dimethylsulfide production in the Antarctic Ocean. Can. J. Fish. Aquat. Sci., 61(5), 736-743 (2004) 河川・湖沼・海洋など様々な水環境を対象として、人間活動が水環境に及ぼす影響や、水質変化や気候変化が生物群集に与える影響について研究を行っている。</p>	<p>ウォンヤンジェ WONG Yong Jie 講師 PhD (Environmental Engineering)</p> <p>専門分野 Regional Climate Change・Artificial Intelligence・IoT System</p> <p>Journal Papers (First/Corresponding Author)- Peer Reviewed 1, Hussein, E.E., Derdour, A., Zerouali, B., Almaliki, A., Wong, Y.J., Ballesta-de los Santos, M., Minh Ngoc, P., Hashim, M.A., & Elbeltegi, A. (2024). Groundwater quality assessment and irrigation water quality index prediction using machine learning algorithms. Water, 16, 264. The global frequency of hydrometeorological and atmospheric disasters is sharply increasing. However, in most developing countries, as both the quantity and quality of environmental data are lacking due to insufficient monitoring stations, making it harder to track and predict these disasters. To tackle this issue, our laboratory employs an integrated approach, utilizing remote sensing technology, GIS, AI, big data analysis, along with IoT and cost-effective sensors. Through this comprehensive strategy, we aim to establish a robust "Sustainable Environmental Management Framework."</p>	<p>永野 真理子 講師 博士(学術)</p> <p>専門分野 Aquatic ecology</p> <p>Nagano, M., Sakamoto, M., Chang, K. H., & Doi, H. (2023). Predator-induced plasticity in relation to prey body size: A meta-analysis of Daphnia experiments. Freshwater Biology, 68(8), 1293-1302. Elucidation of seasonal changes in plankton communities in freshwater areas such as lakes and rice paddies. Understanding of biota using environmental DNA, and phenotypic plasticity through interactions between prey-predator.</p>
---	--	---

生物資源分野

鈴木 玲治 教授 博士(地域研究)
専門分野 森林環境学、土壌学、地域情報学
[論文] Effect of slash-and-burn on nutrient dynamics during the intercropping period of taungya teak reforestation in the Bago Mountains, Myanmar. Tropical Agriculture and Development, 53, 82-89 (2009)
東南アジアや日本の農山村において、生物資源の持続的利用を可能としてきた在来知に着目し、森林環境学、土壌学、地域情報学の観点から、地域の生態環境に調和した農業や森林利用の将来像を検討。

藤井 康代 教授 博士(農学)
専門分野 林産学
[論文] [採卵鶏飼料としての竹粉および自家発酵竹粉の有効性] Bamboo J., 29, 29-35 (2015)
タケを含む木質バイオマスについて、化学的手法による材料利用や生理的現象の解明を行うことで資源の有効活用、資源の持続的な供給を伴うバイオ環境の実現を目指している。

ニエイン チャン
NYEIN Chan 講師 PhD(Area Studies)
専門分野 Ecology and Environment
Assessing the Impacts of Dam Construction on the Livelihoods of Swidden Farmers in Pinlaung, Southern Shan State, Myanmar. Human Ecology, 52(1), Apr, 2024.
My research focuses on sustainable forest resource management by and for local communities.

農業生産分野

船附 秀行 教授 博士(農学)
専門分野 遺伝育種学、作物生理学
[著書] [Biotechnology in Agriculture and Forestry Vol.38] (Springer, 1996, 分担執筆)
[論文] Molecular basis of a shattering resistance boosting global dissemination of soybean. PNAS, 111:177797-802(2014)
穀類、豆類などの作物の生産性や品質に関連した形質の遺伝解析や特性解明、有用品種育成のための技術開発に取り組む。

佐藤 隆徳 教授 博士(農学)
専門分野 蔬菜園芸学、育種学(野菜)
[著書] [新編 野菜園芸ハンドブック] (養賢堂, 2001, 分担執筆)
[論文] Development of the Parthenocarpic Eggplant Cultivar 'Anominori'. Japan Agricultural Research Quarterly (JARQ), 43, 123-127 (2009)
地域特産物となり得る高付加価値な野菜の品種育成と特性解明、さらに環境に配慮した持続可能な栽培技術の開発に取り組む。

エムディー アサデュザマン
Md ASADUZZAMAN 准教授 PhD in Bioproduction Science
専門分野 Greenhouse Horticulture, Controlled Environment Agriculture (CEA), Specialty Crop Production, Autotoxicity in Recycled Hydroponics
① Asaduzzaman, M. (Eds.) Controlled Environment Agriculture-Production of Specialty Crops Providing Human Health Benefits through Hydroponics. ISBN: 978-1-63484-517-5, March, 2016. NOVA Science Publisher, NY, USA. [Edited book]
② Asaduzzaman, M., Talukder MR., Tanaka, H., Ueno, M., Kawaguchi, M., Yano, S., Ban, T. and Asao, T. 2018. Production of Low-Potassium Content Melon Through Hydroponic Nutrient Management Using Perlite Substrate. Front. Plant Sci. 9: 1382.
③ Asaduzzaman, M. and Asao, T. 2020. Autotoxicity in strawberry under recycled hydroponics and its mitigation methods. Hort. J. 89(2): 124-137.
Quality Improvement of Horticultural Crops through Hydroponics and Soilless Culture Under Greenhouse and Controlled Environment Agriculture

坊 安恵 講師 博士(農学)
専門分野 農業経営学
[論文] [新型コロナ感染症拡大による農泊事業への影響と課題] 農業経済研究 95 (3) ,165-170 (2023)
農林漁村での地域の取組を通して、農業経営学の観点から地域活性化について研究を行っている。

藤井 孝夫 特任教授 農学修士
専門分野 土壌学、作物栄養学、植物生理学
[著書] [京料理の文化史] (思文閣出版、2017年 共著)
[論文] [京都府における茶樹の生育障害発生原因] (京都府立茶業研究所研究報告 第22号 1996)
農作物の品質・収量と土壌管理方法との関係性を明らかにし、環境負荷の少ない生産技術の研究・開発に取り組む。特に、京都の伝統的な農作物である、宇治茶や京野菜を研究対象として研究を行う。

環境物理学分野

伊東 和彦 准教授 博士(理学)
専門分野 地球内部物理学、固体物性、結晶合成
[論文] Simple practical processing of a large single crystal from a large amount of a complete stoichiometric mixture in two-component system. J. Cryst. Growth, 271, 398-402(2004)
酸化物の中で特にケイ酸塩を中心とした大型単結晶の合成とその物性の解析を行っている。これらの固体物性の理解はエネルギー環境に配慮した高効率素子の開発を可能にする。

地域共生分野

この分野は、領域内の複数分野にまたがるため、各部分の教員が担当します。

応用生命科学領域

応用微生物学分野

萩下 大郎 教授 博士(農学)
専門分野 応用微生物学、産業微生物学
[論文] Breeding of a cyclic imide-assimilating bacterium, Pseudomonas putida s52, for high efficiency production of pyruvate. Biosci. Biotechnol. Biochem., 77, 1650-1654 (2013)
独自性の高い産業技術の開発に向けた新規微生物の探索と基礎的・応用的な面から酵素化学的な微生物機能の解明に取り組んでいる。

櫻間 晴子 准教授 博士(農学)
専門分野 応用微生物学、酵素化学、構造生物化学
[論文] 1,3-1,4- α -L-fucosynthase that specifically introduces Lewis a/x antigens into type-1/2 chains. J. Biol. Chem. 287, 16709-16719 (2012)
微生物スクリーニング法により汚染物質の除去に有用な酵素を探索し、タンパク質工学的手法によりその酵素の機能改変を行うことで、それらを活用した環境調和型浄化技術の開発を目指している。

井口 博之 准教授 博士(農学)
専門分野 応用微生物学、環境微生物学
[論文] Microbial characterization of the Japanese traditional pickle senmaizuke produced by two different manufacturing processes. Food Sci. Nutr., 9, 4452-4460 (2021)
植物と共生する微生物や、日本の伝統的な発酵食品に関わる微生物について遺伝子工学・分子生物学技術を用いて研究し、微生物生態の理解深化および発酵醸造・作物栽培への応用利用を目指している。

シュインキン
Zhu Yunxin 講師 博士(生物工学)
専門分野 応用生物化学、バイオ機能応用、バイオプロセス工学、環境負荷低減技術
1) Significance of homogeneous operation in light-assisted fixed-bed bioprocess under ammonia stress: Optimization, long-term operation and metagenomic analysis. Bioprocess Technol. 399 (2024): 130568.
2) Why do anaerobes like the light stimulation: Enhanced anaerobic digestion at different wavelengths under ammonia stress. Chem. Eng. J. 483 (2024): 149266.
3) Light triggers green recovery: Boosted biomethane production from ammonia-stressed anaerobic digestion through optimized illuminated bioreactor. Chem. Eng. J. 450 (2022): 138173.
4) Photon number based anaerobic digestion process for efficient bio-methane conversion from ammonium-rich feedstock: Performance evaluation and practical potential. Energy Convers. Manag. 238 (2021): 114155.
バイオエネルギー産生促進のための嫌気性光照射バイオプロセスの構築、関連メカニズムの解明、実環境の適応評価などについて研究する。

植物バイオ分野

高瀬 尚文 教授

博士(理学)

専門分野 植物細胞工学、植物デザイン学

[論文] The improvement and enhancement of phyto-ingredients using new technology of genetic recombination. In *Biotechnology in Functional Foods and Nutraceuticals*, Eds. D. Bagchi, F. C. Lau, D. K. Ghosh, CRC Press, pp157-180 (2010)

有限な地球における人類の活動と生存の持続を目的に、物質循環の流れを踏まえ、植物の機能を巧みに利用したバイオテクノロジーの研究開発に取り組んでいる。

ラファエル プリエト
Rafael PRIETO 准教授

博士(理学)

専門分野 植物分子遺伝学、分子植物生理学

[論文] Characterization of γ -glutamyltransferase- and phytochelatin synthase-mediated catabolism of glutathione and glutathione S-conjugates in *Arabidopsis thaliana*. *Plant Biotech.*, 39, 381-389 (2022).

植物における環境ストレスへの適応、ファイトレメディエーション、栄養代謝、オーキシンやブラスノステロイドなどの植物ホルモンの調節機構などについて研究する。

三村 徹郎 教授

理学博士

専門分野 植物環境生理学、植物細胞生物学

[著書] [基礎生物学シリーズ7 植物生理学 第2版] (三村徹郎、深城英弘、鶴見誠二編) 化学同人 (2019)

[論文] Cell-specific localization of alkaloids in *Catharanthus roseus* stem tissue measured with Imaging MS and Single cell MS, *PNAS* 113, 3891-3896 (2016)

遠藤 暁詩 講師

博士(理学)

専門分野 植物構造学、植物分子生理学

[論文] Cargo-dependent and cell wall-associated xylem transport in *Arabidopsis*, *New Phytol.* 222, 159-170 (2019)

植物が細胞壁を介して環境応答を調節する仕組みを明らかにする。得られた知見を基に、今後の環境変動に適した植物を作出する。また一方で、将来の細胞壁バイオマス利用に資するような、細胞壁改変技術を開発する。

食品科学分野

矢野 善久 教授

理学博士

専門分野 生化学、食品栄養科学

[著書] [ビタミンE研究の進歩] (ビタミンE研究会編, 共立出版, 1994)

[論文] LIS1 and NDEL1 coordinate the plus-end-directed transport of cytoplasmic dynein. *EMBO J.*, 27, 2471-2483 (2008)

食品に含まれる機能成分、特に生活習慣病に対し予防や改善効果を持つ成分の探索法の開発とその成分の生理機能解析。

四日 洋和 講師

博士(工学)

専門分野 食品工学

[論文] A simple method for determining the flaxseed or fish oil content in microcapsules prepared by spray drying. *Jpn. J. Food Eng.*, 15 (3), 131-139 (2014)

食品のおいしさ、香り、色、機能性を物理化学的視点から評価解析し、現在社会の多様なニーズに応える高機能食品の開発に貢献する。

藤田 裕之 教授

農学博士

専門分野 食品化学、生化学、薬理学

[著書] *Marine nutraceuticals and functional foods*, CRC press(2008)

[論文] Efficacy and safety chinese black tea (Pu- Erh) extract in healthy and hypercholesterolemic subjects, *Ann. Nutr. Metab.*, 53, 33-42 (2008)

食品中には、未知の体調調節機能を持つ物質が多く存在している。その中でも特にメタボリックシンドロームを中心に改善作用を示す食品を探索し、その活性成分の単離・構造決定、さらには構造活性相関にも取り組む。

分子細胞生物学分野

寶関 淳 教授

博士(理学)

専門分野 細胞生物学、分子生物学、生化学、タンパク質科学

[論文] Homeostasis of the ER redox state subsequent to proteasome inhibition. *Sci. Rep.*, 11, 8655 (2021).

神経変性疾患をはじめとする様々な疾患発症の原因となる細胞内タンパク質代謝の破綻とレドックス異常が互いどのように関わっているのかをオルガネラレベルで解析し、その機構を解明する。

奥 公秀 准教授

博士(農学)

専門分野 分子生物学、細胞生物学、応用微生物学

[著書] [オートファジー-分子メカニズムの理解から病態の解明まで] 南山堂 82-89 (2018)

[論文] Evidence for ESCRT- and clathrin-dependent microautophagy. *J. Cell Biol.*, 216, 3263-3274 (2017)

細胞レベルでの健康を維持するために、細胞内で物質を分解リサイクルする仕組み、その中でも特にオートファジーとよばれる機構を、酵母や哺乳類培養細胞を用いて研究している。

ニコラ プレヴォ
Nicolas PREVOST 准教授

薬理学博士

専門分野 免疫学

Elajb Z, Adam F, Berrou E, Bordet JC, Prévost N, Bobe R, Bryckaert M, Rosa JP. Full activation of mouse platelets requires an ADP secretion pathway regulated by SERCA3 ATPase-dependent calcium stores. (2016) *Blood* 128:1129-1138.

研究テーマ:
・免疫血栓症および血栓性微小血管症。
・免疫血栓症および線維症。
・免疫血栓症、グリコシル化、および癌。
・免疫血栓症およびアルツハイマー病。

生物有機化学分野

清水 伸泰 教授

博士(農学)

専門分野 天然物有機化学、化学生態学、有機合成化学

[論文] Biosynthetic pathway of aliphatic formates via a Baeyer-Villiger oxidation in mechanism present in astigmatid mites. *PNAS*, 114, 2616-2621 (2017)

土壌動物や昆虫が出すにおいを分析し、その化学構造やどのような行動に関わるのかを明らかにする。体内での生成機構を解明する基礎研究を遂行する一方、より発展的に新しい機能の応用を目指す。

ヴェルマ ラジブ クマール
VERMA Rajiv Kumar 准教授

Doctor of Philosophy (Chemistry)

専門分野 Organic Synthesis, Biorganic Chemistry

Synthesis and photophysical properties of fluorescence molecular probe for turn-ON-type detection of cytosine bulge DNA. *Organic Letters*, 2016, 18, 3170-3173.

Synthesis of functional molecular probes to elucidate cellular mechanisms, Synthesis of heterocyclic compounds as potential drug candidates; Developing multicomponent reactions.

工学研究科

Graduate School of Engineering

京都太秦キャンパス

博士課程前期／博士課程後期 機械電気システム工学専攻

次世代の電気機械システムに必須の高度な専門知識を修得し、新しい発想で産業にイノベーションをもたらして新たな価値を生み出すことができる高度専門技術者・研究者の育成を目指します。博士課程後期では、社会的な課題を解決に導いていく問題発見・解決能力の育成にも力を注ぎます。

めざすこと

グローバルで高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。



目指すは“融合”と“創造”を実践するプロアクティブ・グローバル人材育成

飛躍的な進歩を続ける生成 AI は、蓄積された膨大な知識を基に効率よく答えを見つけ出すことは得意です。AI に出来ないこと、そしてこれからの時代をリードしていくエンジニアに必要なことは何でしょうか？それは、特定の技術分野に囚われることなくグローバルな独自視点で社会的ニーズの高い課題を見つけ、問題点を抽出し、生成 AI を駆使してこれを解決できる力です。本学工学研究科では、次世代が求める材料、エネルギー、情報、システムの4領域から自分の専門領域を定め、それを深く究めると同時に関連する3領域の知識も“融合”して深化させることで、新しい概念を“創造”し、次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる高度専門技術者を養成します。世界 45 カ国以上の学生が集う国際的な環境で、未来を作る意欲のある皆さんの応募をお待ちしています。

工学研究科長 田畑 修

研究内容や教育内容

材 料

肉眼では見えないナノ材料の物性や機能を独自技術で解明する —— 生津資大 教授
数ナノメートルサイズの物体の強度実測や、材料をナノ化することで新たに発現する機能を探究しています。これらを支えるのはマイクロマシンや電子顕微鏡などを融合させた唯一無二の実験技術。世界に誇る独自テクノロジーで目に見えない物体を巧みに操り、次世代の半導体・自動車産業や医療技術に貢献します。

(担当: 今井欽之 教授、中村康一 教授、生津資大 教授、堀井滋 教授、松本龍介 教授)



エネルギー

スマートモータ技術と発電機技術で環境問題に貢献する —— Fuat KUCUK 講師



電気自動車やドローンに搭載するモータを高効率化することは、化石燃料の消費を減らし、地球温暖化を防ぐことにつながります。私の研究室では、新素材やスマート制御技術を駆使した高効率モータや、再生可能エネルギーによる低コスト発電も可能にする、小型かつ高効率な発電機の開発を目指しています。

(担当: Alberto CASTELLAZZI 教授、岸田逸平 准教授、高橋亮 准教授、Fuat KUCUK 講師)

情 報

脳のストレス異常を測定し睡眠障がいの原因究明に挑む —— LIANG Zilu 准教授

最先端のウェアラブル光脳機能イメージング技術と高度なビッグデータ解析手法を組み合わせることで睡眠中の脳活動を測定、ストレス関連異常を探索しています。目に見えない現象の測定は困難ですが、ストレスが睡眠障がいを引き起こす原因や、治療すべき脳の領域を解明することは、人が健康的に生きるために欠かせません。

(担当: 田畑修 教授、川上浩司 教授、Ian PIUMARTA 教授、西正之 准教授、LIANG Zilu 准教授、Martin SERA 講師)



システム

オンライン技術をより正確に安全に行うためのロボットを開発 —— Sajid NISAR 准教授



外科医が手術支援ロボットを遠隔操作する「オンライン手術」の普及にむけて、高度なロボット制御を可能にするウェアラブルロボットの研究開発を進めています。手術支援ロボットの扱いを訓練する VR 環境や、手術の際に重要かつ今まで導入が難しかった「触覚」を提供するロボットグローブを開発しています。

(担当: 沖一雄 教授、福島宏明 教授、Sajid NISAR 准教授、佐藤啓宏 講師、Salem Ibrahim SALEM 講師)

キーワードは“創造”。複数分野を統合するアプローチで、「新たな技術や学問を創り出せる人材」を育成する大学院。

新しい概念を“創造”することによって次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。

グローバルに活躍する国際色あふれる教員陣が最先端の研究設備を揃えた研究環境でORT (On the Research Training) を実施します。また、工学研究科では海外からの留学生の受け入れを積極的に行い、グローバルな環境での学修、研究やコミュニケーションの機会が生まれます。

博士課程 前期

養成する人物像 機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムのいずれかの領域を中心として、次世代の機械電気システムに必須の専門領域の高度な知識を他領域の知識と関連づけながら修得させることによって次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる専門技術者及び高度専門技術者を養成します。

博士課程 後期

養成する人物像 機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムの4領域のうち専門とする1領域を深く学修し、同時に関連する3領域の知識も深化させることで、それぞれの高度な専門的知識に加え、領域横断的な総合領域において高度な専門的知識を深化させ、多様な学問分野の動向と社会ニーズを踏まえた社会的ニーズの高い問題発見能力を有し、新しい概念を“創造”することによって次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる研究者を養成します。

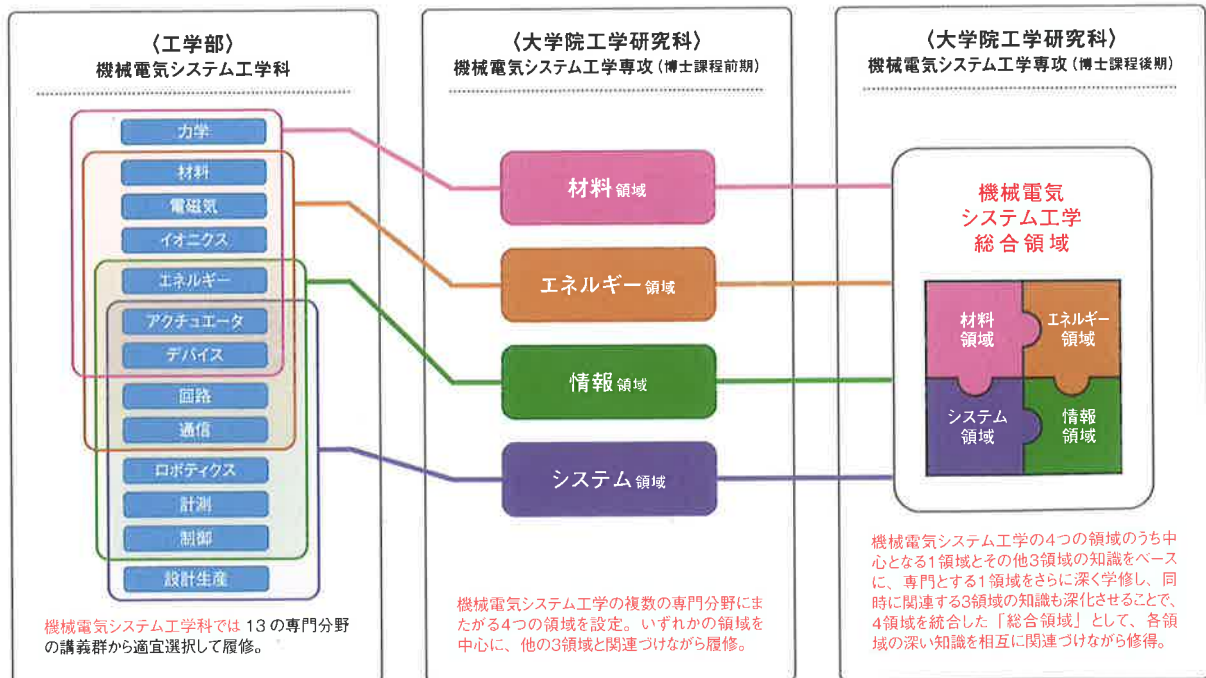
めざすキャリア

- メーカーの設計・生産・開発・品質管理の各部門の高度専門技術者
- 研究者

めざすキャリア

- メーカーにおける研究開発者
- 大学および高等研究機関における研究者

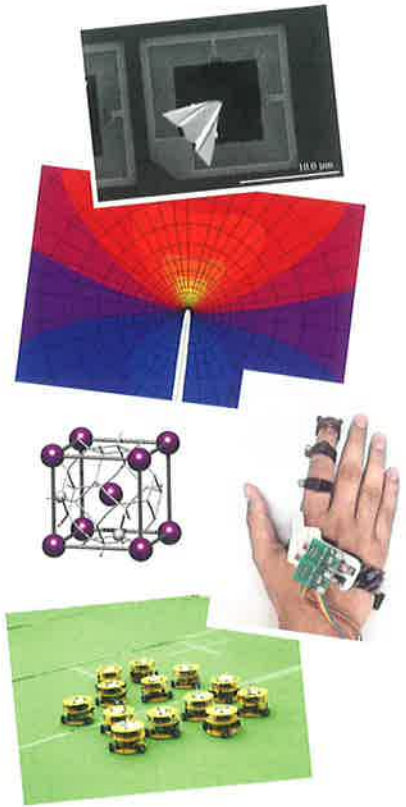
「工学部」と「大学院工学研究科(博士課程前期・後期)」の関係説明図



次世代の電気機械システムに必須の高度な専門知識を修得し、新しい発想で産業にイノベーションをもたらして新たな価値を生み出すことができる高度専門技術者・研究者の育成をめざします。

カリキュラムマップ(博士課程前期)

		教育課程				
セメスタ		1	2	3	4	
科目	語学	科学技術英語	科学技術英語I	科学技術英語II		
	専門科目(基幹)	材料	先端機械電気システム工学通論 エレクトロニクス材料の物理と化学	MEMS 技術と材料		
	エネルギー		風力発電テクノロジー			
	情報	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学				
	システム	ロボティクス特論				
専門科目(発展)	材料	計算材料科学特論				
	エネルギー	半導体電力変換技術	半導体デバイスモジュールのコンピュータ支援設計			
	情報		スクリプト言語と仮想マシン			
	システム	システム設計論	リモートセンシング			
研究分野		特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV	
		特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV	



専門科目(基幹)と専門科目(発展)は1年生で履修可能。語学科目は1年生で履修します。研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、2年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導を行います。

カリキュラムマップ(博士課程後期)

		教育課程					
セメスタ		1	2	3	4	5	6
科目	語学	科学技術英語	科学技術英語III	科学技術英語IV			
	専門科目	材料	機械電気システム工学特論(材料)				
エレクトロニクス材料の物理と化学			MEMS 技術と材料				
エネルギー		計算材料科学特論					
		機械電気システム工学特論(エネルギー)	風力発電テクノロジー				
情報	半導体電力変換技術	半導体デバイスとモジュールのコンピュータ支援設計					
	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学	スクリプト言語と仮想マシン					
システム	システム設計論	リモートセンシング					
	ロボティクス特論	機械電気システム工学特論(システム)					
研究分野		特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV	特別演習V	特別演習VI
		特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV	特別研究V	特別研究VI

専門科目は博士課程前期の科目に加え、機械電気システム工学特論(材料・エネルギー・情報・システム)の4科目を開講します。研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、3年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導ができるようにするとともに、主研究指導教員の所属する領域以外の3領域の教員を交えて発表及び討議を行います。

ADMISSION POLICY

求める人物像

【工学研究科 博士課程前期】

本研究科の教育内容を理解した上で、エンジニアとしての能力を高め、課題解決に基本的な工学技術を駆使し、さらに最先端技術を応用できる学部課程卒業生。地球環境に配慮しながら人類社会を豊かにするための課題に主体的に立ち向かい、グローバルに活躍できる素養を持つ者。

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の基礎的な知識を有している者。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて課題に挑戦する意欲を有する者。

【工学研究科 博士課程後期】

博士課程前期で培った技術的基盤や研究遂行能力をさらに高め、科学技術体系の総合的な理解や情報の受発信能力を向上していき、課題解決に対してより体系的・多面的な取組を主導できる素養を有する者。

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の専門的な知識を有する修士またはそれと同等の学力を持つ社会人。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて、複雑で複合的な問題に挑戦する意欲を有する者。

FACULTY

教員紹介

材料領域

今井 欽之 教授 博士(工学)

専門分野 光制御デバイス (Optoelectronic devices)、光学結晶 (Optical crystals)、誘電体 (Dielectrics)、ホログラフィー (Holography)

担当科目 機械電気システム工学特論 (材料) 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 [著書] 久保田 他 (共著) "ホログラム最新技術~感光材料の開発から実製品への応用まで~"、情報機構、(2006)。 [論文] T. Imai et al, "Fast response varifocal lenses using $KTa_{1-x}Nb_xO_3$ crystals and a simulation method with electrostrictive calculations," *Appl. Opt.*, vol. 51, no. 10, pp. 1532-1539, (2012). など

専門は単結晶を材料とした光制御デバイス、ホログラフィー。単結晶の育成から取り組んでおり、近年は非常に強い電気光学効果を持つ単結晶を用いた、光線を高速に曲げる (走査する) デバイスの開発とその装置応用に重心を置いている。

中村 康一 教授 博士(工学)

専門分野 量子材料科学、量子化学、量子物理学、ナノ材料

担当科目 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 [著書] First-principles simulation on thermoelectric properties of transition metal dichalcogenide monolayers, *Jpn. J. Appl. Phys.* 57, 06HE04 (2018). ほか多数

量子化学的・量子物理学的手法に基づく材料物性 (熱電変換特性、電気機械特性など) や材料反応に関する理論的研究とシミュレーションのほか、相対論的電子状態理論を用いた材料系の応用計算を行っている。

生津 資大 教授 博士(工学)

専門分野 ナノメカニクス、ナノテクノロジー、機能性材料

担当科目 MEMS 技術と材料 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 "Strength of Carbon Nanotubes Depends on Their Chemical Structures", *Nature Communications* (2019) ほか300件以上

ナノテクノロジーを駆使した独創的な材料研究を推進しています。独自の実験技術を駆使して肉眼で見えない物に触れたり加工したり強度を測ったりして、ナノ~原子サイズの材料の振る舞いを明らかにしていきます。

堀井 滋 教授 博士(工学)

専門分野 磁場を用いた材料プロセス、超伝導工学、酸化物材料物性

担当科目 エレクトロニクス材料の物理と化学 機械電気システム工学特論 (材料) 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 [著書] High-Temperature Superconductors, Occurrence, Synthesis and Applications Chapter 6, Nove Science Publisher (2019)。 [論文] [Achieving higher orientation degrees in Dy123 superconductor through LDT-MRF system] *J. Appl. Phys.* (2023)、[リニア駆動型回転変調磁場発生装置の開発] 粉体および粉末冶金 (2023、招待) ほか300報以上

主に酸化物材料を対象に、磁場配向プロセス開発や材料化に向けた物質設計指針の構築に関わる実験的研究を、電氣的・磁氣的・結晶構造の観点から進めています。

松本 龍介 教授 博士(工学)

専門分野 固体力学、計算力学、材料強度学、原子シミュレーション

担当科目 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 [著書] "Atomistic Simulations of Hydrogen Effects on Lattice Defects in Alpha Iron", *Handbook of Mechanics of Materials*, Chapter 10, Springer, 2019。 [論文] 80 編以上のジャーナル論文を執筆

金属材料の変形と破壊機構や、強度信頼性評価に関する研究を行っている。特に電子・原子レベルのシミュレーション手法を用いて、水素環境での材料強度の劣化 (水素脆化) 機構の解明に取り組んでいる。

エネルギー領域

アルベルト カステラッツィ
Alberto CASTELLAZZI 教授 Ph.D. in Electrical Engineering (ドイツ)

専門分野 パワー半導体、パワーエレクトロニクス

担当科目 半導体電力変換技術 半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 A. Castellazzi, E. Gurpinar, Z. Wang, A. S. Hussein, P. Garcia Fernandez, *Impact of Wide-Bandgap Technology on Renewable Energy and Smart-Grid Power Conversion Applications Including Storage*, *Energies* 2019, 12(23), 4462; <https://doi.org/10.3390/en12234462> (Invited - Feature paper)

Wide bandgap (WBG) semiconductor devices are making their way pivotal domains of societal infrastructure such as sustainable energy generation and conversion. Experience has highlighted a number of gains that can be drawn from this technology even when used as a straightforward drop in substitute of silicon in established applications. Incremental in nature, these gains enable interesting progress beyond state-of-the-art. With particular reference to renewable energy power conversion and solid-state transformation, in the context of transport applications and incorporating a storage device, this paper reports on the understanding generated over the past years and points out some specific technology and circuit design requirements to ensure overall beneficial impact of the adoption of WBG technology.

岸田 逸平 准教授 博士(工学)

専門分野 計算材料科学、電池工学、イオニクス

担当科目 エレクトロニクス材料の物理と化学 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 The graph-theoretic minimum energy path problem for ionic conduction, *AIP Advances*, 5 (10), p. 107107 (2015)。

「誰かが電池を改善してくれたらいいなあ」とぼんやり眺めて過ごすよりも、自分がその電池を改善して社会に貢献する。そんなことを夢見て、私は主に電池材料の研究を理論計算を用いて進めている。

高橋 亮 准教授

博士(理学)

専門分野 情報通信工学、電気電子回路、統計物理学

担当 半導体電力変換技術 機械電気システム工学特論(エネルギー) 特別演習I~VI
科目 特別研究I~VI

著書論文 Ryo Takahashi, Keiji Tashiro and Takashi Hikiyama, "Router for Power Packet Distribution Network: Design and Experimental Verification", IEEE Transactions on Smart Grid, vol. 6, no. 2, pp. 618-626, March 2015.

電力ルーティングシステムなど、情報通信システムおよび電気システムを横断し、両システムを連系統合したサイバーフィジカルシステムによる革新的システムおよびその産業応用についての研究を行う。

情報領域

田畑 修 教授

博士(工学)

専門分野 マイクロ・ナノシステム、センサ、DNA ナノテクノロジー

担当 先端機械電気システム工学特論 MEMS 技術と材料
機械電気システム工学特論(情報) 特別演習I~VI
科目 特別研究I~VI

著書論文 センサ、3次元微細加工、薄膜材料機械的物性評価、微小生体模倣システム、DNA ナノテクノロジーなどの分野における英語論文170編、国際学会発表300件、国内口頭発表200件以上。IEEE フェロー、電気学会フェロー。

「小さな機械が創る大きな機会」をスローガンにして、ミリメートルからナノメートルの大きさの構造と機械・電気・化学・光・バイオなどの機能を統合して新しい機械電気システムをつくりだす研究に取り組んでいる。

西 正之 准教授

博士(工学)

専門分野 無機材料化学、ナノ材料、光学特性

担当 エレクトロニクス材料の物理と化学
特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 [論文] "Nanoscale Raman imaging with nanogold-topped AFM probes fabricated by area-selective electroless deposition," *J. Electrochem. Soc.*, 165, D711 (2018); "Focused-ion-beam-enabled electroless growth of gold nanoparticles on silicon," *J. Ceram. Soc. Jpn.*, 126, 614 (2018).

個々のナノ材料、あるいはもっと大きな材料のナノ領域がどのような物質・化学結合状態からなっているのか、そしてそれが空間的にどのように分布しているのかを知るための顕微分光法に関する探針をオリジナルの技術でベースに作製しています。

システム領域

沖 一雄 教授

博士(都市・地域計画学)

専門分野 リモートセンシング、ドローン計測、データ解析

担当 リモートセンシング 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 K. Oki, Noda, K., Yoshida, K., Azechi, I., Maki M., Honma, K., Hongo C. and Shirakawa, H., Development of an Environmentally Advanced Basin Model in Asia. [Crop production] (Aakash Goyal, ed.), INTECH, 17-48 (2013) DOI:10.5772/54926
[論文] K. Oki, H. Oguma, and M. Sugita, Subpixel Classification of Alder Trees using Multitemporal Landsat Thematic Mapper Imagery, PE&RS, Vol.68, No.1, pp.77-82 (2002).

ドローンや人工衛星などのリモートセンシング技術によって観測されたビックデータから付加価値情報を抽出するための手法開発をおこなっている。また、他分野との連携によるイノベーション創出に興味がある。

佐藤 啓宏 講師

博士(工学)

専門分野 ロボティクス、VR/MR、コンピュータビジョン

担当 ロボティクス特論 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 "VR/MR ガイドツアーシステムの開発と運用" 日本 VR 学会、19. 2. 247-254. 2014. "タンブルロボットの用いたロボットハンドによる人間の持ち替え動作の模倣" 日本ロボット学会誌、33. 7. 514-523. 2015. 共著等

コンピュータビジョンやVR/MRを使ってアームロボットや車両型ロボットを遠隔制御や自動制御で動かす。最近の興味は、ロボットが自律的に視覚を制御して必要な情報を自動で取得する能動視覚にある。

フアット クチュク Fuat KUCUK 講師

Ph.D. in Electrical Machines and Power Electronics(トルコ)

専門分野 電気機械工学、パワーエレクトロニクス、再生可能エネルギー変換、電気自動車

担当 風力発電テクノロジー 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 F. Kucuk, E. Sunan, "Performance Analysis of an Alnico-Based Permanent Magnet Reluctance Generator for Wind Energy Conversion System", IEEE Transactions on Electrical and Electronic Engineering, vol.13, no. 9, pp. 1296-1302, 2018.

Wind energy becomes significant source of electricity production in the world. This course provides a thorough introduction to modern wind power generation systems and their control technologies.

川上 浩司 教授

博士(工学)

専門分野 システムデザイン、システム工学、人間機械系

担当 システム設計論 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 不便から生まれるデザイン(化学同人、2011)、不利益という発想(インプレス、2017)、不利益(近代科学社、2017)、アーティファクトデザイン(共立出版、2018)、不利益のススメ(岩波、2019)、他多数

システムデザイン論。人工的にシステム(モノやコト)をデザインする(創り出す)ときの指針を探求する。人とシステムが環境を含めて「共生」する状態にするための指針として「不利益」の実現を捉える。

リャン ジールー

LIANG Zilu 准教授

博士(工学)

専門分野 ウェアラブルコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、健康情報学、応用健康科学

担当 特別演習I~IV 特別研究I~IV

著書論文 Liang Z, Ploderer B. (2020) "How does Fitbit measure brainwaves": a qualitative study into the credibility of sleep-tracking technologies. PACM on Interactive, Mobile, Wearable and Ubiquitous Technologies (IMWUT) 4(1):Article 17. ほか多数

人をもっと健康的でイキイキと生きるためのウェアラブルコンピューティングと情報処理技術の研究に取り組んでいる。データ解析、人間とコンピュータのインタラクションなど幅広い学際的な研究課題に挑戦している。

イアン ピュマータ

Ian PIUMARTA 教授

Ph.D. in Computer Science(イギリス)

専門分野 コンピューターサイエンス

担当 大学院エンジニアのためのコンピュータ数学
スクリプト言語と仮想マシン 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 Ian Piumarta. *Open, extensible composition models*. In Proceedings of the 1st Workshop on Free Composition (FREECO) 2011

Configurable and meta-programmable systems that observe and analyse themselves or modify their own implementations.

マーティン セラ

Martin SERA 講師

Ph.D. in Mathematics(ドイツ)

専門分野 数学、数理科学

担当 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 Chern forms of hermitian metrics with analytic singularities on vector bundles, joint with R. Lärkäng, H. Rauli & E. Wulcan, Indiana Univ. Math. J. 71 (2022), no. 1, 153-189
Chern classes of singular metrics on vector bundles, joint with R. Lärkäng, H. Rauli & J. Ruppenthal, Advances in Mathematics 326 (2018) 465-489
A generalization of Takegoshi's relative vanishing theorem, Journal of Geometric Analysis 26 (2016) no. 3, 1891-1912

His research interest is in the field of complex geometry. Using L^2 -theory and coherent sheaves, he analysed the geometry of singular complex spaces. Recently, he studies singular Hermitian metrics on vector bundles.

サジド ニサル

Sajid NISAR 准教授

Ph.D in Engineering

専門分野 ロボット工学、機械デザイン
医療やモビリティアプリケーションの触覚学

担当 特別演習I~VI 特別研究I~VI
機械電気システム工学特論(システム)
先端機械電気システム工学特論

著書論文 1. Telesurgical Robotics - Encyclopedia of Information Science and Technology, Third Edition, IGI Global, Joint authorship (Sajid Nisar and Osman Hasan)
2. Telesurgical Robotics and a Kinematic Perspective - Encyclopedia of Information Science and Technology, Fourth Edition, IGI Global, Joint authorship (Sajid Nisar and Osman Hasan)

福島 宏明 教授

博士(情報学)

専門分野 制御工学、ロボティクス

担当 ロボティクス特論 機械電気システム工学特論(システム)
特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書論文 [論文] Leader-Follower Navigation in Obstacle Environments While Preserving Connectivity Without Data Transmission, IEEE Transactions on Control Systems Technology, Vol. 26, No. 4, 2018. ほか。

群ロボットシステムやヘビ型ロボットなどの複雑で自由度の高いダイナミクスもつシステムを対象とし、環境の変化にも柔軟に対応できる制御手法の構築を目指して研究に取り組んでいる。

サレム イブラヒム サレム

Salem Ibrahim SALEM 講師

Ph.D in field of Civil Engineering

専門分野 リモートセンシング、水資源と環境、水質、深層学習、データシミュレーション、音声認識

担当 特別演習I~VI 特別研究I~VI リモートセンシング
機械電気システム工学特論(システム)
先端機械電気システム工学特論

2025年度 大学院 入学試験ガイド

■募集研究科及び入学定員

研究科	専攻・コース	入学定員	備考	
経済学研究科	経済学専攻 (データサイエンスと行動経済学コース・税理士養成コース)	5名	※選考方法についての詳細は、 入学試験要項を参照してください。	
経営学研究科	経営管理専攻 (ビジネススクール)	20名		
人間文化研究科	人間文化専攻	文化研究コース		10名 (うち臨床心理学コースは 6名)
		社会情報コース		
		心理学コース		
		臨床心理学コース		
バイオ環境研究科	博士課程前期	バイオ環境専攻		20名
	博士課程後期			3名
工学研究科	博士課程前期	機械電気システム 工学専攻		15名
	博士課程後期			2名

■出願期間・選考日・合格発表日

	インターネット出願期間	選考日	合格発表日
A 日程	2024年9月11日(水)～9月24日(火) (出願書類の郵送は9月26日(木)消印有効)	10月5日(土)	10月22日(火)
B 日程	2025年1月6日(月)～1月14日(火) (出願書類の郵送は1月16日(木)消印有効)	1月25日(土)	2月14日(金)
C 日程	2025年2月10日(月)～2月26日(水) (出願書類の郵送は2月28日(金)消印有効)	3月6日(木)	3月14日(金)

*学内推薦選考希望者は、入学センターまでお問い合わせください。

*C日程は、経済学研究科(データサイエンスと行動経済学コース)および経営学研究科のみ実施。

■2025年度 学費等 納付金額(予定)

2025年度の入学者に適用する学費等の額は、2024年7月頃に決定する予定です。以下は、2024年度の入学者に適用する学費等を参考として掲載しています。

経営学研究科・経済学研究科・バイオ環境研究科

費目	研究科別	経営学研究科		経済学研究科		バイオ環境研究科	
		入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入学金		200,000円	—	200,000円	—	200,000円	—
学費	授業料	750,000円	750,000円	272,500円	272,500円	315,000円	315,000円
	施設設備費	—	—	96,000円	96,000円	75,000円	75,000円
	実験実習費	—	—	—	—	85,000円	85,000円
合計		950,000円	750,000円	568,500円	368,500円	675,000円	475,000円

人間文化研究科

費目	コース別	文化研究コース・社会情報コース		心理学コース		臨床心理学コース	
		入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入学金		200,000円	—	200,000円	—	200,000円	—
学費	授業料	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円
	施設設備費	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円
	実験実習費	—	—	10,000円	10,000円	40,000円	40,000円
小計		568,500円	368,500円	578,500円	378,500円	608,500円	408,500円
委託徴収金	学生会費	3,000円	—	3,000円	—	3,000円	—
合計		571,500円	368,500円	581,500円	378,500円	611,500円	408,500円

工学研究科

費目	研究科別	工学研究科	
		入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入学金		200,000円	—
学費	授業料	325,000円	325,000円
	施設設備費	75,000円	75,000円
	実験実習費	100,000円	100,000円
合計		700,000円	500,000円

*最終学歴が京都学園大学・京都先端科学大学(大学院含む)の方は、入学金100,000円(全研究科共通)、施設設備費半期分64,500円(バイオ環境研究科・工学研究科除く)となります。

京都先端科学大学大学院奨学金

本学では、意欲ある優秀な研究者を応援するため、返還義務の無い給付型奨学金を用意しています。

区分	研究科	項目	金額	募集時期	採用期間
スーパートップ	全研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の100%及び修学支援奨励金として学期毎に600,000円	入学前	2年間
	バイオ環境研究科 工学研究科	博士課程後期	入学金、各学期学費の100%及び修学支援奨励金として学期毎に600,000円	入学前	3年間
成績優秀第1種	全研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の100%	入学前	2年間
	バイオ環境研究科 工学研究科	博士課程後期	入学金、各学期学費の100%	入学前	3年間
成績優秀第2種	全研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の50%	入学前	2年間
	バイオ環境研究科	博士課程後期	入学金、各学期学費の50%	入学前	3年間
成績優秀第3種	工学研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の30%	入学前	2年間

※企業から学費の支給がある企業派遣の方は、奨学金対象外です

※学費とは授業料、施設設備費、実験実習費を指します

※奨学金の継続には学期ごとの成績審査があります

大学院長期履修学生制度のお知らせ

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、計画的に教育課程を履修し、修了する制度です。

1.適用研究科 全ての研究科に適用されます。

2.申請資格

①職業を有している者

②育児、介護等の事情により、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者

③その他やむを得ない事情(身体の障がい、疾病等)を有し、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者

※外国人留学生(在留資格「留学」を有する者)は申請できません。

3.履修期間

①修士課程・博士課程前期の長期履修計画期間は、標準修業年数2年を含み最大4年

②博士課程後期の長期履修計画期間は、標準修業年数3年を含み最大6年

4.申請手続

2025年3月1日までに各研究科窓口までお問合せください。

経済学研究科	075-406-9230
経営学研究科	075-406-9116
人間文化研究科	075-406-9118
バイオ環境研究科	0771-29-3422
工学研究科	075-496-6219

5.授業料等の取扱

①履修計画期間(標準修業年数に長期履修期間年数を加えた期間)における授業料等の額は、標準修業年数(修士課程・博士課程前期2年、博士課程後期3年)分の学費等(以下「標準修業年数分学費総額」という。)を履修計画期間で除した額とし、1円未満の端数は1年次の金額に算入します。

②履修計画期間に変更があった場合、標準修業年数分学費総額から、支払済み授業料等を差し引いた額を、残りの履修計画期間で除した額とし、1円未満の端数は残りの履修計画期間の1年目の金額に算入します。

③その他研究科で定められた費用が必要となる場合があります。

KUAS

KYOTO UNIVERSITY of ADVANCED SCIENCE

京都先端科学大学 大学院

<https://www.kuas.ac.jp/>

【入試に関するお問い合わせ】 入学センター

TEL/075-406-9270 E-Mail/nyushi@kuas.ac.jp



京都太秦キャンパス

〒615-8577 京都市右京区山ノ内五反田町18 TEL/075-406-7000(代表)

【経済経営学部】 経済学科/経営学科 【人文学部】 心理学科/歴史文化学科
【健康医療学部】 看護学科/言語聴覚学科 【工学部】 機械電気システム工学科
【大学院】 経済学研究科(修士課程)/経営学研究科(修士課程)
人間文化研究科(修士課程)/工学研究科(博士課程前期・後期)



京都亀岡キャンパス

〒621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条大谷1-1 TEL/0771-22-2001(代表)

【バイオ環境学部】 生物環境科学科/応用生命科学科
【健康医療学部】 健康スポーツ学科
【大学院】 バイオ環境研究科(博士課程前期・後期)